

多自然居住地域の創造のための

地域連携の実態調査と展望

課題番号 13680092

平成13年度～平成14年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書

平成15年5月

研究代表者

宮口侗迪

（早稲田大学教育学部教授）

は し が き

研 究 組 織

研 究 代 表 者 : 宮 口 侗 迪 (早稲田大学教育学部教授)

交 付 決 定 額 (配 分 額)

(金額単位:千円)

	直 接 経 費	間 接 経 費	合 計
平成 13 年度	5 0 0	0	5 0 0
平成 14 年度	6 0 0	0	6 0 0
総 計	1 1 0 0	0	1 1 0 0

研究成果発表は未定

本研究の目的は、第 5 次の全総計画「21 世紀の国土のグランドデザイン」において示された「多自然居住地域の創造」のための具体的施策を考えるヒントとなるよう、地方中核都市から 1 時間以上の時間距離にある圏域の、生活サポート機能の立地状況と、地域間の利用状況を調査しようというものである。調査の対象とした四つの圏域は、北海道富良野地域、岩手県遠野地域、島根県雲南地域、熊本県阿蘇地域である。調査においては、現地の役所・役場の職員の方々に多くのご協力をいただいた。記して感謝したい。

目 次

第1章	国土計画における「多自然居住地域の創造」の提案の意義	1
第2章	北海道富良野地域における生活サポート機能の利用状況	7
第3章	岩手県遠野地域における生活サポート機能の利用状況	19
第4章	島根県雲南地域における生活サポート機能の利用状況	29
第5章	熊本県阿蘇地域における生活サポート機能の利用状況	51
第6章	ま と め	78

第1章 国土計画における「多自然居住地域の創造」の提案の意義

1. 多自然居住地域の意味

「多自然居住地域」という表現は、「21世紀の国土のグランドデザイン」と名づけられた現行の全国総合開発計画において、国土計画の基本的な四つの戦略の一つとして「多自然居住地域の創造」という形で位置づけられたものである。

筆者は専門委員として、四全総の総点検から「グランドデザイン」の策定までのかなりの期間国土審議会にかかわったが、そこでこの言葉が生まれるまでにはかなり長い議論があった。このキーワードは、日本の過去に例のない転換期において、従来型とは異なる地域の発展の図式をイメージするものとして、かなり重要な意義を持つと考える。

20世紀のわが国の人口増加は、基本的には都市人口の増加であった。その最初の60年余りは、農村部で生まれた多くの子供のうち、家と土地を受け継ぐ少数の人を除いて、多くの人が都市に向かった。しかしこの間、農村はあまり変化することなくしっかりと受け継がれ、いわば都市の成長と農村の継承(停滞)の時代が長く続いた。

その後の高度成長期には、農村を受け継ぐ立場だった人たちも都市に出て行き、戻らなくなる。この現象が顕在化し、成長する都市地域の対極として広大な人口減少地域が生まれ、このかなりの部分が過疎地域という概念でくくられた。それ以来、地域の発展・衰退は基本的に人口の増減で考えられてきた。

筆者は地域の盛衰を人口の増減のみでとらえることへの疑問を早くから指摘してきたが、全体人口が減少に向かおうとしている中で、地方中枢・中核都市とその隣接地域の人口がなお増える傾向にあることを考えれば、すべての地域で人口増加をめざすことは間違っているのではないかということが、すなおに理解されるはずである。

人が集まることによってさらなる経済発展をつくり出すのが、都市の順調な成長の原理である。人が集まっても経済発展が生まれなければ、スラム的な部分が増える。むしろこれが世界の常識である。幸い、経済が落ち込んだとはいえ、わが国の中枢・中核都市はまだ持ちこたえており、都市の成長の原理にのっとりた発展が期待できる。また、これらの都市から近郊にあるような地域は、今までのように中枢・中核都市の経済とのかかわりの延長上に地域生活の発展を考えていけばいいであろう。

しかし、成長する都市から遠距離にある農山村は、成長する都市経済と直接かかわることが困難であり、このような地域が現実には過疎地域に指定されてきた。そしてそのよりどころであった中小都市の商業も、ほとんど例外なく衰退している。

全体人口が減少に向かう中で、中枢・中核都市とその隣接地域の人口が今しばらく増える状況にあるのは、これらの地域が、職場の多様性と都市生活の利便性、そして東京などに比較して住宅事情が良く、いわば普遍化したオーソドックスな都市生活を営みやすいからである。端的に言えば、普通の現代人が暮らしやすい場所だからである。

このような状況の中で、過疎地域やその中の中小都市の人口が回復することはあり得な

いし、それを望むことは本質的に間違っている。すなわちこれらの地域は、拡大成長する都市とは異なるタイプの発展をつくり出すことを考えざるを得ない。筆者は、「グランドデザイン」の専門委員会で、「人口が減っていても、空間や資源が以前よりも活用されて新しい生産のしくみが生まれ、一人あたりの生産力が増えているならば、地域は発展していると考えるべきではないか」という指摘をした。このような地域では、少ない人口で空間や資源を多面的に利用し、一人あたりの取り分を増やそうとすることこそが、目指すべき方向なのだという議論である。そして地球環境の有限性が叫ばれ、自然との共生が時代のキーワードになりつつあることは、このような地域での生活の価値が、高密度の都市生活に対するもう一つの価値として普遍的に認識される時代になったということでもある。

このような議論の結果、わが国の国土を、これからも都市的な発展が可能な地域と、人口は増えなくても、空間の使い方を発展させることによって魅力ある居住を実現する地域の二つに分けて考えることになったというのが、筆者の理解である。そして、前者のほうは、いままでの発展の図式のように、ある程度都市経済の力で引っ張っていくことが可能であるが、特に後者の方は、未経験の、いわば教科書のない考え方であるので、国土政策として大いに後押しをしなければ実現がおぼつかない。というわけで、このような地域を「多自然居住地域」と呼び、「多自然居住地域の創造」を「グランドデザイン」の戦略の一つに大きく位置付けることになったのである。ちなみに上の説明で欠けている、肥大し多くの点で問題を抱える大都市については、「大都市のリノベーション」として、やはり四つの戦略の一つに位置付けられた。

したがって「多自然居住地域の創造」とは、単に自然の中で暮らすことだけを意味するのではなく、今なお都市的な原理にのっとり成長する可能性を持つ中枢・中核都市から一線を画して、停滞する中小都市と周辺の農山漁村をひとくくりにして、従来のような都市化と拡大成長の時代とは違った発展のしくみをつくり出すという戦略なのである。そこには程よい都市機能の享受と、自然と空間を活用した多彩な産業の育成が想定されている。これが、この地域が「21世紀の新たな生活様式を可能とする国土のフロンティア」と位置付けられ、創造という言葉が使用されているゆえんである。

2. 本研究の目的

本研究は、地方中枢・中核都市から1時間以上の時間距離にある小都市と農山村がつくる圏域が、現にどのような生活サポート機能を持ち、地域住民によってどのように利用されているかを考察しようとするものである。人口減少によって少数社会になりつつあるとしても、そこに資源を活用した現代的な生産活動の育成と、程よい生活サポート機能が存在することによって、成長する都市とは別の豊かさを持つ生活空間がつけられていくことが、まさに「多自然居住地域の創造」であり、地方中枢・中核都市から遠い地域の生活が、これらの都市機能の影響をも含めて、現実にとどの地域のどのレベルの機能を利用しているかを、基礎的な調査として行おうというものである。

調査地域としては、北海道富良野地域、岩手県遠野地域、島根県雲南地域、熊本県阿蘇地域の4箇所を対象とした。それぞれの地域において、現地調査によって生活サポート機能の立地状況を調査し、さらに、生活サポート機能の利用において、各市町村および中核都市との間にどのような関係があるかをみるために、各圏域の市町村において、それぞれの自治体の職員20名に、別に示すアンケート調査を行った。それぞれの20名に関しては、できるだけ居住地・年齢・性別が偏らないように選んでいただいた。20名に限ったのは、この調査研究が、あくまで地域連携の基礎調査として、現実の生活の中で、どのような機能を利用するためにどこまで出かけるのかという、質的な事例を拾い上げるためのものだからである。したがって本研究では、量的な操作を伴う分析を意図していない。

行政職員を選んだのは、安定した所得があり、知識水準も高く、現代という時代を反映したすなおな行動をとりやすい傾向があると考えられるからである。勤務地がその町村であることは、他の市町村の機能を利用する場合に、通勤経路の影響が少ないということも、調査上好ましい点である。アンケートの内容は次のようなものである。

「多自然居住地域の創造」のための基礎調査へのご協力をお願い

早稲田大学教育学部 宮口侗迪

第五次の全国総合開発計画において、中枢都市や中核都市から遠距離にある地域の発展の戦略として、「多自然居住地域の創造」という考え方が打ち出されました。そこでは、活力のある産業システムがつくられていく一方で、その圏域の中での、総合病院などの高レベルの生活サポート機能の存在が重要とされています。私は専門委員としてその考えの基本を提唱した一人ですが、現在、いくつかの地域について、地域の生活をサポートする主要な機能の存在状況の整理を試みています。ご多忙中とは存じますが、以下の質問にお答えいただき、この研究にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

1. まずあなた御自身についてお答えください。

年齢：()才、性別：(男・女)、職業：()

住所：()市・町・村()地区

勤務地：()市・町・村()地区

現在の市町村に居住して約()年

以下の質問については、自市町村内の店・施設を利用される場合はア、他市町村の店・施設を利用される場合はイを選び、最もよく利用される店・施設の名前、またはその地区名をカッコ内に書き込んで下さい。わからない場合は、市町村の名前だけでも結構です。また、必要な場合には○で囲んでください。

2. 病院について

かぜなどの軽い病気の際は、通常どちらの医院・病院にかかりますか。

ア. 自市町村の()地区の()医院・病院

イ.()市・町・村の()医院・病院

入院や通常の手術が必要な病気の際は、どちらの病院にかかりましたか、あるいはかかりられるおつもりですか。

ア. 自市町村の()地区の()医院・病院

イ.()市・町・村の()医院・病院

ご出産はどちらの医院・病院でなさいましたか、あるいはなさるおつもりですか(女性のみ)。

ア. 自市町村の()地区の()医院・病院

イ.()市・町・村の()医院・病院

歯科はどちらの医院・病院にかかりますか。

ア. 自市町村の()地区の()医院・病院

イ.()市・町・村の()医院・病院

眼科・耳鼻科・皮膚科などについて、近くにないなど不便を感じておられますか。

眼科：(不便を感じていない・遠くて通院に不便・通院できるところにない)

耳鼻科：(不便を感じていない・遠くて通院に不便・通院できるところにない)

皮膚科：(不便を感じていない・遠くて通院に不便・通院できるところにない)

その他病院に関して日ごろ感じていることをお書きください。

()

()

3. 買い物について

日常の食料品はどちらの店または地区でお買いになりますか。

肉・魚類：ア. 自市町村の()地区

イ.()市・町・村の()

野菜類：ア. 自市町村の()地区

イ.()市・町・村の()

意識して少し高級な食材を求めるときはどちらの店または地区でお買いになりますか。

ア. 自市町村の()地区の()

イ.()市・町・村の()

ポロシャツや肌着など簡単な衣料品はどちらの店または地区でお買いになりますか。

ア. 自市町村の()地区の()

イ.()市・町・村の()

外出時の上着等の衣料品はどちらの店または地区でお買いになりますか。

- ア. 自市町村の（ ）地区の（ ）
イ.（ ）市・町・村の（ ）

4. 外食について

ふだんの外食はどちらの地区でなさいますか。

- ア. 自市町村の（ ）地区
イ.（ ）市・町・村の（ ）地区

特においしいものを食べようという時はどちらの地区を利用されますか。

- ア. 自市町村の（ ）地区
イ.（ ）市・町・村の（ ）地区

5. 金融機関について

ふだん預貯金で利用していらっしゃる金融機関はどちらにありますか。

- ア. 自市町村の（ ）銀行・農協・郵便局
イ.（ ）市・町・村の（ ）銀行・農協・郵便局

住宅ローン等ではどちらの金融機関を利用していらっしゃいますか、あるいは利用されるおつもりですか。

- ア. 自市町村の（ ）銀行・農協・郵便局
イ.（ ）市・町・村の（ ）銀行・農協・郵便局

6. 切符などの手配について

国内旅行で飛行機や列車に乗る際には、航空券・切符をどちらの店または地区で予約されますか。あるいはお買いになりますか。

- 飛行機：ア. 自市町村の（ ）地区
イ.（ ）市・町・村の（ ）地区
列車：ア. 自市町村の（ ）地区
イ.（ ）市・町・村の（ ）地区

その機関は、直接発券できるオンラインの機材を持っていますか。（いる・いない）

7. 書店について

雑誌や簡単な本などを、普段はどちらの店または地区でお買いになりますか。

- ア. 自市町村の（ ）地区
イ.（ ）市・町・村の（ ）地区

近くの書店には置いていないような本はどちらの店または地区でお買いになりますか。

ア. 自市町村の() 地区

イ. () 市・町・村の() 地区

8. パソコンについて

パソコンはどこで購入されましたか。あるいは購入されるつもりですか。

ア. 自市町村の() 地区

イ. () 市・町・村の() 地区

9. 一般の家庭電化製品について

冷蔵庫やテレビなどの電化製品は通常どこで購入されますか。

ア. 自市町村の() 地区

イ. () 市・町・村の() 地区

10. 学校について

高校を選択する時、どこの高校が頭に浮かびますか。

() 市・町・村の(県立・私立) 高校

() 市・町・村の(県立・私立) 高校

上に書いた高校より範囲を広げて考えるとき、次にどこの高校が挙げられますか。

() 市・町・村の(県立・私立) 高校

() 市・町・村の(県立・私立) 高校

11. 自動車学校について

運転免許はどちらの自動車学校で取られましたか

() 市・町・村の() 地区

12. 図書館について

あなたの町村に図書館はありますか (はい・いいえ)

普段、どこの図書館を利用していますか。

() 市・町・村の() 図書館

上に書いた図書館に目的の本がない時、どこの図書館を利用していますか。

() 市・町・村の() 図書館

ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

第2章 北海道富良野地域における生活サポート機能の利用状況

1. 富良野地域の概況

図2-1に示すように、富良野地域は北海道の中央部にあり、中心都市富良野市の人口は26,112人(2000年国勢調査、以下同じ)である。富良野市は、地方中核都市旭川市(359,526人)から、通常1時間以上の時間距離にあり、まわりには、上富良野町(12,809人)、中富良野町(5,833人)、南富良野町(3,236人)、占冠村(1,873人)、美瑛町(11,900人)などがある(図2-1)。

富良野市からは、JRで旭川市へは富良野線で1時間10分程度、滝川市(46,858人)へは根室本線でやはり1時間10分程度の時間距離にあるが、両方とも本数が少なく、高校生の通学には利用されているものの、このような中心都市への移動は、自家用車が中心である。富良野市からのバスの便は旭川空港を経て旭川駅に至るものが比較的良好に利用されているが、空港までは1時間あまり、旭川駅までは1時間30分程度を要する。

2. 富良野地域の通勤・通学データから見た地域間の関係

2000年の国勢調査によって、富良野市・中富良野町・上富良野町・南富良野町・占冠村の通勤・通学データを一覧にしたものが、表2-1から2-5である。

表2-1によれば、一応域内の中心都市富良野市へは、上富良野町・中富良野町からともに600名以上の流入があり、逆に富良野市から両町へ200名以上が流出しており、これらの町との関係が最も大きいことがわかる。これらの二つの町は、共に富良野盆地を構成し、しかも富良野市から旭川市に向かう軸線上にあって、移動も比較的容易である。

これに対して南富良野町は富良野市から十勝へ狩勝峠をこえるルート上にあるものの、より山間地域であり、通勤の難易度が高いことが低い数値になっている理由と考えられる。

他には旭川市と芦別市(21,026人)から共に200人以上の流入があるのが目立つが、富良野から旭川へは155人の流出があるのに対し、芦別へは37人の流出しかない。この差は両市の都市規模を如実に反映していると同時に、かつて産炭地であった芦別市の経済のきびしい状況をも繁栄していると考えられる。

表2-2によれば、富良野市に隣り合う中富良野町の従業・通学人口のうち71.1%が町内のそれである。人口6,000人に満たない町としては多く感じられるが、これは農業が基幹産業である北海道の特性をよく反映している。前述のように富良野市との関係が、流入入共に強いが、上富良野町・旭川市との関係も目立つ。

表2-3によれば、旭川市に近くなる上富良野町は、富良野との関係が強いものの、旭川市との関係もより強いものになっている。流出は富良野市の法が圧倒的に多いものの、流入になると、富良野市・中富良野町・旭川市の間には大きな差はなくなる。この理由ははっきりとはわからないが、上富良野から旭川への流出よりも逆の流入のほうが多いことは、上富良野に自衛隊の駐屯地があることに関係するかもしれない。

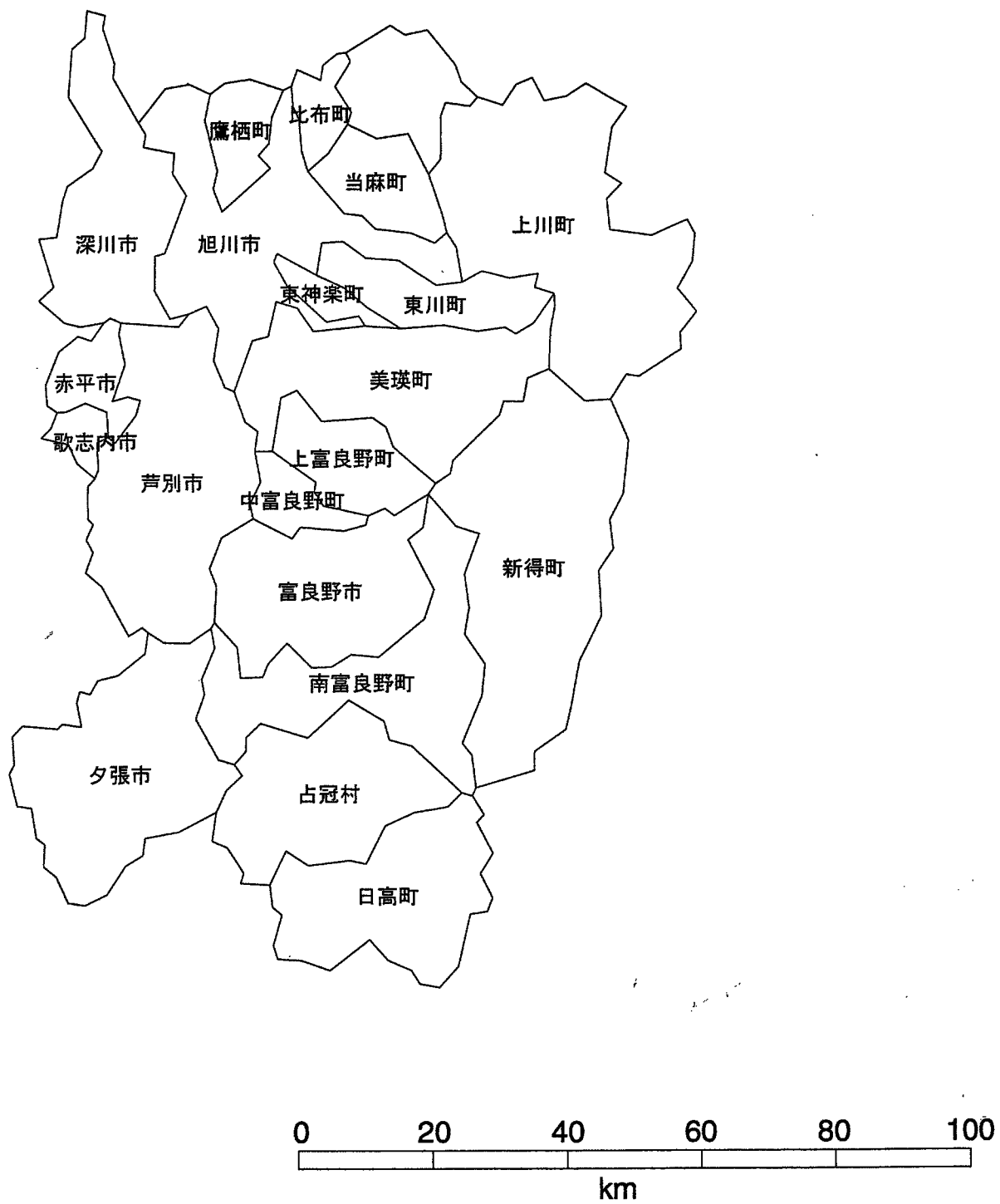


図2-1 富良野地域とその周辺

同じ郡内とはいえ、占冠村になると、常住人口の 93.4%が域内就業または通学となり、分水界を越えた日高町や新得町との関係があらわれる。

3. 富良野地域における生活サポート機能の存在状況

ここでは現地ヒアリングから、この地域における重要な生活サポート機能の立地状況を簡単に整理しておく。

(1) 富良野市

重要な機能が多く立地しているのはやはり富良野市であるが、病院としては、社会福祉法人富良野協会病院が 400 床程度の大きな総合病院としてあり、その他に 100 床程度の富良野西病院がある。市民からのヒアリングによると、その他にも個人病院が多くあり、病院に関して不自由は感じられないとのことであった。

大きなショッピングセンターはなく、生協・A コープの他に地元百貨店がある程度の商業機能は、少し物足りないところかもしれない。家庭電化店は、ベスト電器が 1 店あり、パソコン類の品揃えはない。札幌まで 2 時間程度だから買いに行くひともあるという話があった。

金融機関は北海道銀行・北洋銀行・札幌銀行・労金・旭川信金など、数は多い。その他の生活サポート機能として、自動車学校が 1 校、オンラインを持っている旅行代理店が 2 店ある。高等学校は 2 校で、専門学校等の上級学校はない。なお、旭川の高校へ通う生徒は 30 人くらいいるのではないかという話であったが、朝 6 時 02 分の列車に乗る必要があるとのことで、中核都市との関係は、ここではきびしい状況にあった。

(2) 中富良野町

中富良野町には 50 床程度の町立病院があり、内科中心の診療を行なっている。特別養護老人ホームもある。

商業機能としては、農業の町らしく、A コープが唯一の大型店である。そのほか特に目立った機能はない。

(3) 上富良野町

上富良野町には 80 床程度の町立病院がある。内科と外科があり、半分が療養型ベッドであるという。自衛隊の駐屯地があって若い隊員が多く、出生数も比較的多いにもかかわらず、かつてあった産婦人科がなくなり、小児科もないのが、住民の不満であるという。実際の出産は旭川でというケースが多いという話であった。

上富良野には民間の大手スーパーマーケットが 2 店ある。帯広と旭川の資本で、中富良野からも買物にくるといふ。富良野へ買物に行くこともかなり多いという。

自衛隊がある関係で飲食店はかなり多く、100 軒はこえるという。また、高校が 1 校ある。

(4) 南富良野町

南富良野になると、病院はなく、町立の診療所が二つあるのみである。ヒアリングでは、富良野の病院に行く人はもちろんいるが、札幌までいってしまうことも結構あるという。

生活物資の多くは富良野市で購入され、町内には生鮮食品を扱う店がない。旭川信金と農協・郵便局が給与の振込みに使われている。高校はなく、かえってどこの高校を受験してもいいので、できる生徒は遠くまで行くという。

4. 富良野地域における生活サポート機能の利用状況

ここで対象とした富良野地域の4つの市町の職員20名に対するアンケート調査の結果を表2-6から表2-9に示す。

まず富良野市であるが、全体として圏域の中心都市としての様相を示すものになっている。軽い病気および歯科は全員が富良野市の医療施設にかかっており、手術を必要とする場合も、出産の場合も、1～2例を除いて市内の施設を利用している。

食料品の購入先も、日常的にはすべて市内となっており、高級な食材という場合に、旭川に少し、札幌に例外的に出かける人がある。外食も、レベルアップのときを含めて、市内で充足している状況が窺われる。

ただ、衣料品になると、日常的にも6名、外出着にいたっては、旭川が圧倒的に多く、札幌へ行く人も3名いる。これはファッションに対する意識をも示していて、興味深い。

家電製品については市内が圧倒的に多いが、パソコンになると旭川がある程度あらわれるのは妥当なところであろう。

銀行等の利用や、旅行者の利用については、地元の機能が充足しているとみられるが、書店の利用に関しては、少し専門的なものになると旭川が圧倒的に多くなり、このあたりに、小さな中心都市の不満がのぞく。ただ図書館はおおむね地元が利用されており、これについては他市町村の施設の利用のしやすさとの兼ね合いもあるであろう。

自動車教習所は、以外に分散したが、在学中に札幌で免許を取るなどのことを考えれば不思議ではない。新得町が3名もいるのは、当該施設の営業力による可能性もある。

中富良野町になると、やや近いが小都市である富良野市と、遠いが中核都市である旭川市の利用がいろいろ分散して興味深い。

病気に関しては、軽い病気でも富良野市まで行く人が4名いる。手術を必要とする病気になると、旭川市が7名になるが、それでも富良野市のほうが多い。これが次に述べる上富良野町になると、旭川が12名と、はっきり逆転する。

普段の食材は町内と富良野市が共に9名だが、上富良野町が4名おり、中富良野から上富良野のスーパーマーケットへ買物にくる人がいるという、先の記述を裏付けている。高級な食材になると町内にはなく、富良野が増え、旭川市にも5名となる。外食は、日常的には富良野が一番であるが、レベルアップの日は旭川となり、これは富良野市の傾向とはっきり異なる。

ここでも、衣料品は日常的には富良野市だが、旭川も7名もあり、外出着にいたっては、はっきり旭川が支持されている。

家電製品になると、中富良野町・富良野市・旭川市がほぼ拮抗し、パソコンになると地元では難しく、旭川が目立ってくる。衣料品とパソコンに通販があらわれるのも納得できる。

金融関係はほとんど地元であり、住宅ローンがすべて町内であることは、農業の町として、農協との強い関係を窺わせる。また、旅行の準備として、列車による場合は富良野市の旅行者の利用もかなりあるが、飛行機の場合は、空港のある旭川市が圧倒的に強くなる。

書店は、求める本のレベルによって、やはり、富良野市と旭川市が逆転する。図書館は富良野市のものがある程度支持されていることがわかる。

上富良野町になると、圏域の中では旭川市まで最も近くなる。軽い病気は町内で診てもらい、重い場合には旭川がトップになる。現在は産婦人科がなくなったが、かつては出産も町内で可能だったため、アンケートでは、町内・富良野市・旭川市が拮抗している。歯科で旭川市まで行く人がいるのは、この圏域でこの上富良野町が唯一である。

地元のスーパーマーケットは高級食材においても支持されており、旭川市もそれに次ぐが、これに関しては富良野市の利用はない。外食も、日常的に旭川が地元について支持され、レベルアップのときは逆転する。富良野市の影響があまり及んでいないことがわかる。

衣料については、日常的にも外出着においても旭川がトップを占め、日常的なもので富良野市の利用がままある。家電製品もパソコンも旭川市がトップになることが注目される。

ただ、金融は意外に富良野市に関わり、住宅ローン関連では 5 名もいる。ここには何か特別の関係があるのかもしれない。

旅行に関しては、列車の切符は町内、飛行機は旭川市とはっきり分かれていて、富良野市の利用は極端に少なくなる。書店も、軽いものは町内、重いものは旭川とはっきり分かれる。図書館で富良野市と旭川市が若干名いるのは、地元の図書館では物足りない人いるということであろう。自動車教習所は富良野市と旭川市が拮抗しているが、新得町が 2 名いる。

南富良野町になると、旭川市からは 2 時間以上の距離になる。軽い病気の際の診療所はあるが、重いものは町内では対応できず、多くは富良野市を利用しているが、記述で述べたように旭川市、さらには札幌市の利用があるのが注目される。歯科等においても、富良野市を通り越して旭川市を利用している人がいることも注目される。

通常の食材は町内と富良野市が半々であり、高級食材は富良野市が多く一部旭川市で、外食のレベルアップになると、旭川市が富良野市に迫る。日常の衣料は富良野市と旭川市が拮抗し、外出着になるとほとんど旭川市となるが、これらに関して帯広市が若干名あらわれるのは、やはり位置関係を反映して興味深い。家電は富良野が支持されているのに、衣料品が旭川なのは、衣料品の個性的多様性のほうがはるかに優るからであろう。パソコンも富良野市・旭川市に加えて帯広市が 1 名いる。ちなみに、南富良野町の中心部から帯

広市への所要時間は、自家用車で2時間近くである。

外食は富良野市が支持されているのは、やはり旭川との距離が反映しているのであろう。ただレベルアップの時には、やはり旭川は無視できず、帯広も1名いる。金融は地元に加えて富良野市が支持され、書店も通常のもは富良野市で、専門的なものは旭川市とはつきりする。

飛行機の切符が旭川なのは、帯広空港が帯広市街地よりも遠いせいかもしれない。図書館の利用で富良野市がかなり支持されているのは、小さな町の施設の限界を示している可能性が強い。自動車教習所は新得に加えて、十勝の芽室町があらわれる。

表2-1 富良野市の通勤・通学者データ

市内	13,717	92.8%	市内	13,717	87.0%
流出	1,061	7.2%	流入	2,053	13.0%
100 札幌市	10	0.1%	100 札幌市	31	0.2%
その他の区	10	0.1%	その他の区	31	0.2%
204 旭川市	155	1.0%	204 旭川市	227	1.4%
216 芦別市	37	0.3%	216 芦別市	232	1.5%
459 美瑛町	16	0.1%	218 赤平市	38	0.2%
460 上富良野町	291	2.0%	225 滝川市	17	0.1%
461 中富良野町	224	1.5%	459 美瑛町	40	0.3%
462 南富良野町	167	1.1%	460 上富良野町	620	3.9%
463 占冠村	80	0.5%	461 中富良野町	620	3.9%
その他の市町村	79	0.5%	462 南富良野町	103	0.7%
他県	2	0.0%	463 占冠村	37	0.2%
合計	14,778	100.0%	その他の市町村	69	0.4%
			他県	19	0.1%
			合計	15,770	100.0%

表2-2 中富良野町の通勤・通学者データ

町内	2,467	71.1%	町内	2,467	83.2%
流出	1,001	28.9%	流入	497	16.8%
204 旭川市	100	2.9%	204 旭川市	74	2.5%
229 富良野市	620	17.9%	229 富良野市	224	7.6%
460 上富良野町	237	6.8%	459 美瑛町	10	0.3%
その他の市町村	41	1.2%	460 上富良野町	164	5.5%
他県	3	0.1%	その他の市町村	24	0.8%
合計	3,468	100.0%	他県	1	0.0%
			合計	2,964	100.0%

表2-3 上富良野町の通勤・通学者データ

町内	6,427	85.0%	町内	6,427	87.2%
流出	1,133	15.0%	流入	944	12.8%
204 旭川市	203	2.7%	100 札幌市	10	0.1%
229 富良野市	620	8.2%	その他の区	10	0.1%
459 美瑛町	87	1.2%	204 旭川市	229	3.1%
461 中富良野町	164	2.2%	216 芦別市	23	0.3%
462 南富良野町	10	0.1%	229 富良野市	291	3.9%
その他の市町村	40	0.5%	453 東神楽町	11	0.1%
他県	9	0.1%	459 美瑛町	100	1.4%
合計	7,560	100.0%	461 中富良野町	237	3.2%
			その他の市町村	36	0.5%
			他県	7	0.1%
			合計	7,371	100.0%

表2-4 南富良野町の通勤・通学者データ

町内	1,617	91.0%	町内	1,617	86.0%
流出	160	9.0%	流入	263	14.0%
229 富良野市	103	5.8%	216 芦別市	13	0.7%
463 占冠村	42	2.4%	229 富良野市	167	8.9%
その他の市町村	15	0.8%	460 上富良野町	10	0.5%
他 県	-		463 占冠村	20	1.1%
合計	1,777	100.0%	635 新得町	14	0.7%
			その他の市町村	37	2.0%
			他 県	2	0.1%
			合計	1,880	100.0%

表2-5 占冠村の通勤・通学者データ

村内	1,153	93.8%	村内	1,153	83.4%
流出	76	6.2%	流入	230	16.6%
229 富良野市	37	3.0%	100 札幌市	19	1.4%
462 南富良野町	20	1.6%	その他の区	19	1.4%
601 日高町	10	0.8%	229 富良野市	80	5.8%
その他の市町村	9	0.7%	462 南富良野町	42	3.0%
他 県	-		635 新得町	19	1.4%
合計	1,229	100.0%	その他の市町村	61	4.4%
			他 県	9	0.7%
			合計	1,383	100.0%

表2-6 富良野市

	市内		市外			その他
	富良野市	旭川市	札幌市	新得町		
病院(かぜ)	18					
(手術)	21	1				
(出産)	14	1	1			
歯科	17					
買物(肉)	18					
(魚)	19					
(高級食材)	12	4	1			
(ポロシャツ)	11	6				
(外出着)	1	14	3			
外食(1)	8	1				
(2)	8	1	1			帯広1
金融(1)	18					
(2)	10	1				
切符(飛行機)	10	3	1			
(汽車)	15					
書店(1)	15	1				
(2)		12	3			
パソコン	6	3	1			
家電	6	1	1			
高校(1)	12	4				
(2)	2	10	2			
教習所	7	1	5	3		帯広・小樽1
図書館(1)	12					
(2)		2	1			

表2-7 中富良野町

	町内		町外				その他
	中富良野町	上富良野町	富良野市	旭川市	札幌市		
病院(かぜ)	15	1	4				
(手術)			11	7			
(出産)		1	5	2			
歯科	17	1	2				
買物(肉)	9	4	1				
(魚)	9	4	9				
(高級食材)		2	11	5			
(ポロシャツ)			11	7		通販1	
(外出着)			2	17	1		
外食(1)	3		13	2			
(2)	3		4	10			
金融(1)	19		1				
(2)	10						
切符(飛行機)	1		1	14			
(汽車)	2		7	6			
書店(1)	5		13	2			
(2)			2	17			
パソコン	1		5	11	1	通販1東京1	
家電	7		6	5	1		
高校(1)	1		15	13	1		
(2)					1		
教習所			13	4	2	歌志内1	
図書館(1)	11		3				
(2)			6	2			

表2-8 上富良野町

	町内		町外				新得町	通販	その他
	上富良野町	20	高良野市	旭川市	札幌市	2			
病院(かぜ)	20	2							
(手術)	4	5		12					
(出産)	6	5		4					
歯科	13			2				中富良野1	
買物(肉)	17	1							
(魚)	17	1							
(高級食材)	11			7					
(ポロシャツ)	1	7		12			2		
(外出着)		1		20			1		
外食(1)	8	2		6					
(2)	7			9					
金融(1)	20	3							
(2)	8	5		1					
切符(飛行機)	1	2		14	1				
(汽車)	13	1		6					
書店(1)	13	1		4					
(2)	1	4		16					
パソコン	3	2		15	1		1		
家電	9	5		10	1				
高校(1)	4	13		14				美球1	
(2)		1		8	4				
教習所		10		8	2		2		
図書館(1)	10	3		2					
(2)		2		3					

表2-9 南富良野町

	町内		町外					その他
	南富良野町	17	富良野市	旭川市	札幌市	帯広市	新得町	
病院(かぜ)		17	6	1				
(手術)			18	3	2			
(出産)			7	2				
歯科		13	8	1				
買物(肉)		10	11	2				
(野菜)		13	8	2				
(高級食材)			15	5		2		
(ポロシャツ)			10	9	1	2		
(外出着)			1	17	1	3		
外食(1)		8	11			1		
(2)		1	10	7	1	1		
金融(1)		22						
(2)		10	5					
切符(飛行機)			1	18				
(汽車)		17	1	3				
書店(1)		5	16	1				
(2)			9	11	1			
パソコン					5			
家電		2	14	4		1		
高校(1)		11	14	3				
(2)		1	7	9	1			
教習所			8	3		1	5	
図書館(1)		7	5	2				
(2)			1		1			

第3章 岩手県遠野地域における生活サポート機能の利用状況

第1章 遠野地域の概況

遠野市（人口 27,681 人）は、東北地方のメインストリートである東北自動車道および東北新幹線から、東へ 35～40 km 程の所にある遠野盆地をベースにした小都市である。花巻市（72,995 人）の花巻駅からの JR 釜石線による所要時間は 1 時間余り、自動車では 50 分程度の時間距離となる。中核都市といえる県都盛岡市までは 1 時間 30 分程度の場所にある。

花巻市から東に、東和町（10,710 人）、宮守村（5,427 人）と続き、遠野市の東側には、太平洋側との分水界をはさんで、かつて製鉄で栄えた釜石市（46,520 人）が隣接する。遠野盆地は猿ヶ石川の上流の低平な盆地で、水田が広がり、市街地は木材の集散地で栄えた。周辺の農村部には民話が残し、かつて柳田国男の遠野物語によって世に知られるようになったことは、余りにも有名である。

遠野市は、より上位の都市である花巻市と釜石市のちょうど中間にあつて、両市との関係が強かったが、近年では自動車交通の発達から、宮守村を経て道路が直結している北上市（91,500 人）との関係も強まってきている。ここでは遠野市の中心地機能を考察するために、遠野市とそこから花巻方面に隣接する宮守村、さらに東和町を調査の対象とした。以上の位置関係を図 3-1 に示す。

2. 遠野地域の通勤・通学データからみた地域間の関係

前章と同じように、遠野地域の通勤・通学データを一覧にしたものが、表 3-1 から表 3-3 である。

表 3-1 に見るように、遠野市は、従業者及び通学者の 9 割以上が市内で就業または通学している。これは、花巻市の 78% という数値に比べると、非常に高い。古くから水田農業の発達した、生活の完結しやすい内陸の盆地であったことの影響が残っているとみられる。

遠野市からの流出先としては、釜石市が最大で 300 人を超える。遠野-釜石間は JR でちょうど 1 時間であり、通勤できるぎりぎりの距離であろう。かつて栄えた釜石市の影響力の残存を感じる。次いで隣接する宮守村、北上市、花巻市の順に流出先が並ぶが、北上市のほうが花巻市よりも多くなったのは、自動車交通の利便性が増したことと、北上市方面が、新幹線・高速道路の開通によって企業立地が増えたことに関わると考えられる。

盛岡までの通勤・通学は基本的には困難であるが、1% 近く存在する。これには、毎日通勤しているのではない人も含まれるであろう。

流入で最も多いのは宮守村であり、遠野市の中心都市としての地位を示す。宮守村のデータ（表 3-2）による宮守村からの流出先としても、遠野市（328 人）は花巻市（300 人）を制して 1 位であるが、その差は大きくはなく、距離を考えると、遠野市の地位低下が窺

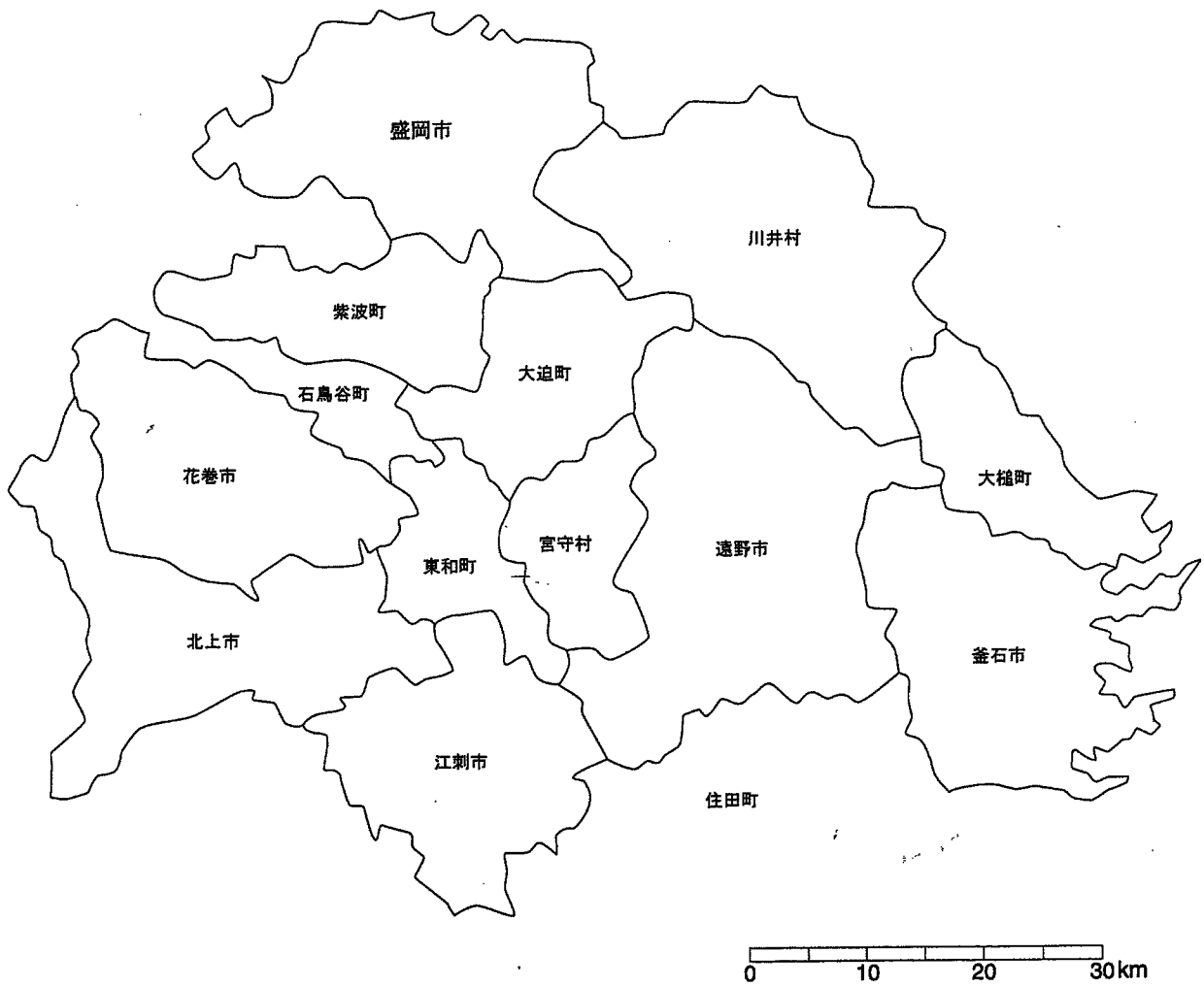


図3-1 遠野地域とその周辺

われる。

その他流入が目立つのが釜石市と住田町で、釜石市との着実な関係を示すと共に、遠野市が、分水界を越える南部の山村である住田町の貴重な就業地・就学地となっていることを示す。

官守村は、遠野市の西に隣接し、西は花巻市との間に東和町をはさんでいる。前述したように遠野市への流出が最も多く、遠野市との関係が強い。流入も遠野市からが群を抜いて1位(256人)であるが、これには近年、官守村のロードサイドにショッピングセンターを始め、かなりの店舗が立地したことが影響しているとみられる。

ただ、花巻市への流出も増えてきており、北上市次いで東和町と、西への流出が増える傾向にある。

東和町は花巻市に隣接するだけあって、1300人を超える人が花巻市に通勤・通学している。次いで北上市(540人)が大きく、ここでは遠野市の影は相当薄くなる。

流入も花巻市からが群を抜いて多く、数値は低くなるが、官守村がそれに次ぐ。東和町から官守村への流入も無視できないことは、表3-2でみたとおりである。

総じて、花巻市・北上市という新幹線・高速道路の沿線の都市が中心性を増している中で、遠野市は、その地位を低下しつつある状況が窺われる。

3. 遠野地域における生活サポート機能の存在状況

(1) 遠野市

遠野市には、221床の岩手県立遠野病院がある。岩手県は県立病院が非常に多く分布している県で、花巻市にも県立病院がある。遠野病院には通常の総合病院の診療科目がそろっており、これに関して市民が不便を感じることはなさそうである。その他に18の診療所・病院がありこれらの病床数も100近くある。歯科も9ヶ所ある。

高校は県立が2校あり、一つは普通科、一つは農業系である。自動車教習所も1校ある。

市街地の中心部にあった大きなショッピングセンターが撤退したため、商工会議所が中心になってその再生を図り、食料品店・化粧品店・旅行代理店などが入店している。高齢者のための施設も同居し、市内の高齢者にとって利便性のある施設となっている。食材のレベルはかなり高い。今後の運営が課題であろう。

その他ロードサイドには、<コメリー>・<ホームック>(日用雑貨)衣料の<しまむら>、<イエローハット>などが立地し、このようなタイプの店は比較的多く立地している。なお、SMCという、工業用ロボットの空気弁をつくる企業の工場が誘致され、ここは200人規模の就業の場となっている。

(2) 官守村

官守村は、もともと上閉伊郡として、遠野市との関係が強いところである。小さい村のため、そんなに大きな中心地機能はないが、近年、ロードサイドにショッピングセンター

がつくられ、〈道の駅〉に指定されたこともあって、飲食店もそこに隣接してかなり集結している。これに関連して、かつての中心集落はさびれている。

一応家電の店もあり、金融機関としては花巻信用金庫があるが、花巻市には〈イトーヨーカ堂〉があり、これがかなりの集客力を持つのではないかという話が聞かれた。

病院関係では、村立の診療所と個人の医院があり、病院は最近花巻の県立病院へ行く人の方が多いという話であった。

高校は遠野と花巻の両方へ進学し、自動車教習所も両者半々ではないかという。

(3) 東和町

東和町はかなり花巻に近いから、大きな生活サポート施設は見当たらない。ただ、岩手県の特性として、この東和町にも71床の県立病院があり、一応の機能を果たしている。

高校はなく、進学先はほとんど花巻市と北上市である。道路は東西と南北にも通じているため、バスは町営バスも含めて四方に走っていて、通学にも利用されている。盛岡への通勤・通学も何とか可能であるという話であった。

近年町では、アグリトピア公社という第3セクターをつくって、新しい農業の拠点にしようとしている。農業で暮らす健全な家庭を育成したいということで、子育ての支援や施設整備に重点をおいているという。

4. 遠野地域における生活サポート機能の利用状況

ここでも第2章で示したように、上に述べた3市町村の職員それぞれ20名に行なったアンケート（遠野市だけはサンプルが多い）から、施設の利用状況を整理したい。その結果を表3-4から表3-6に示す。

遠野市に関しては、表3-4にみるように、病院の利用に関しては、軽い病気のほとんどが市内の病院の利用で済まされているのに対し、手術レベルになると、200床を超える県立病院が地元にあるにもかかわらず、盛岡市の利用のほうが多いことが注目される。サンプルが少なくても、市民が、遠くてもより高度な病院をという志向性を持っていることは確かであろう。

日常の食材の購入がほぼ市内でおさまっているのに対し、高級なものは花巻市・盛岡市があらわれる。外食については、日常的にも上位の都市が現れるのに加えて、レベルアップの際には、花巻市・北上市よりも盛岡市の支持が高いのは注目される。

衣料品についても、日常レベルですでに花巻市・北上市・盛岡市があらわれるのに対し、外出着では盛岡市が1位となる。

金融・旅行の準備などはしないでもほぼ充足しているが、専門的な書店は遠野市になく、これにはやはり盛岡市の利用が目立つ。図書館もレベルの高い書物になると、盛岡市（県立図書館の可能性が高い）が支持されている。

宮守村については、軽い病気については地元の診療所で対応するものの、重いものになると、遠野市よりも花巻市の県立病院が圧倒的に支持されている。

この傾向は他の機能についてもみられ、食材の購入や衣料品の購入についても、日常的なものや高級なものが共に、遠野市よりも花巻市への志向を強めている。家電製品・パソコンの購入にしても、花巻市の支持が強い。これには、実際の店の機能が花巻市の方が上だという価値判断のほか、花巻が盛岡さらには東京という、より上位の都市の方向にあり、遠野がそれとは逆の方向にあるという、心理的效果もあるのかもしれない。

列車による旅行の切符は、花巻市と遠野市が同じくらい、飛行機になると花巻市が多くなるのにも、上と似た心理が働いているかもしれない。

なお、外出着においても花巻市の支持が強いことは、この点に関しての花巻市の機能の強さを示すと考えられるが、外食のレベルアップの際に、盛岡市が1位になっていることは、この点に関しての中核都市の強さを物語っている。

東和町になると、ほとんどの項目で遠野市の支持はまったくあられない。そして、遠野市において、重い病気の際に盛岡市へという回答が多かったことに対して、ここでは、近距離にある花巻市がすなおに支持されている。

食材の購入は、日常的には町内で、レベルアップの時には花巻市・北上市・盛岡市でという状況は外食についても変わりはない。ただ、日常的な衣料が花巻市になっているのは、大型のショッピングセンターの存在によるものであろう。家電製品・パソコンなどについても花巻市ないし北上市というデータは、両市と近接関係にあるこの町の位置をよく反映している。

表3-1 遠野市の通勤・通学者データ

流出			流入		
町内	14,836	91.3%	町内	14,836	92.5%
流出	1,421	8.7%	流入	1,197	7.5%
201 盛岡市	138	0.8%	201 盛岡市	70	0.4%
203 大船渡市	36	0.2%	203 大船渡市	17	0.1%
204 水沢市	19	0.1%	204 水沢市	14	0.1%
205 花巻市	180	1.1%	205 花巻市	65	0.4%
206 北上市	195	1.2%	206 北上市	49	0.3%
211 釜石市	316	1.9%	209 一関市	15	0.1%
212 江刺市	15	0.1%	210 陸前高田市	12	0.1%
305 滝沢村	15	0.1%	211 釜石市	222	1.4%
321 紫波町	11	0.1%	212 江刺市	16	0.1%
322 矢巾町	15	0.1%	305 滝沢村	14	0.1%
342 石鳥谷町	10	0.1%	321 紫波町	14	0.1%
361 東和町	29	0.2%	322 矢巾町	16	0.1%
441 住田町	31	0.2%	341 大迫町	13	0.1%
462 宮守村	256	1.6%	342 石鳥谷町	11	0.1%
その他の市町村	72	0.4%	361 東和町	38	0.2%
他県	83	0.5%	441 住田町	175	1.1%
合計	16,257	100.0%	461 大槌町	38	0.2%
			462 宮守村	328	2.0%
			487 川井村	14	0.1%
			その他の市町村	32	0.2%
			他県	24	0.1%
			合計	16,033	100.0%

表3-2 宮守村の通勤・通学者データ

流出			流入		
町内	2,093	66.5%	町内	2,093	82.5%
流出	1,055	33.5%	流入	443	17.5%
201 盛岡市	62	2.0%	205 花巻市	36	1.4%
205 花巻市	300	9.5%	206 北上市	16	0.6%
206 北上市	119	3.8%	208 遠野市	256	10.1%
208 遠野市	328	10.4%	341 大迫町	22	0.9%
321 紫波町	17	0.5%	361 東和町	69	2.7%
341 大迫町	44	1.4%	その他の市町村	40	1.6%
342 石鳥谷町	33	1.0%	他県	4	0.2%
361 東和町	93	3.0%	合計	2,536	100.0%
その他の市町村	41	1.3%			
他県	18	0.6%			
合計	3,148	100.0%			

表3-3 東和町の通勤・通学者データ

町内	4,186	62.5%	町内	4,186	83.9%
流出	2,516	37.5%	流入	801	16.1%
201 盛岡市	115	1.7%	201 盛岡市	18	0.4%
204 水沢市	19	0.3%	205 花巻市	421	8.4%
205 花巻市	1,377	20.5%	206 北上市	68	1.4%
206 北上市	540	8.1%	208 遠野市	29	0.6%
208 遠野市	38	0.6%	212 江刺市	14	0.3%
212 江刺市	24	0.4%	321 紫波町	27	0.5%
305 滝沢村	11	0.2%	341 大迫町	24	0.5%
321 紫波町	51	0.8%	342 石鳥谷町	63	1.3%
322 矢巾町	20	0.3%	462 宮守村	93	1.9%
341 大迫町	38	0.6%	その他の市町村	33	0.7%
342 石鳥谷町	139	2.1%	他県	11	0.2%
381 金ケ崎町	19	0.3%	合計	4,987	100.0%
462 宮守村	69	1.0%			
その他の市町村	20	0.3%			
他県	36	0.5%			
合計	6,702	100.0%			

表3-4 遠野市

	遠野市	花巻市	北上市	盛岡市	釜石市	その他
病院(かぜ)	34	1	1		1	
(手術)	15	1	1		18	紫波1
(出産)	4					2 宮古1
歯科	33	1	1		1	
買物(肉)	33	1	1			
(魚)	33	1	1			
(高級食材)	18	5	5		8	
(ポロシャツ)	20	5	5	6	4	
(外出着)	4	11	11	6	14	札幌・東京1
外食(1)	25	3	3	2	3	
(2)	11	5	5	6	11	
金融(1)	36				1	
(2)	28	1	1			
切符(飛行機)	22	5	5		2	
(汽車)	26	1	1		1	
書店(1)	26	2	2	2	5	
(2)	3	7	7	4	18	通販・札幌1
学校(1)	28	11	11	1	4	4
(2)		11	11	2	12	6 一関2 仙台1
図書館(1)	31	1	1			紫波1
(2)		1	1		15	

表3-5 菅守村

	菅守村	東和町	花巻市	北上市	盛岡市	遠野市	その他
病院(かせ)	15			1			1
(手術)				12		2	2
(出産)				5			2
歯科	10		1	3			2
買物(肉)	9			6		1	1
(魚)	7			6		1	2
(高級食村)			2	8	1		3
(ポロシャツ)	2			10	4	2	2
(外出着)	1			12	5	2	2
外食(1)	3			12	2		1
(2)	1			6	2	7	
金融(1)	14						1
(2)	7						4
切符(飛行機)				5	3	1	1
(汽車)	1			5		1	5
書店(1)	12			3			1
(2)	2			12	2		1
パソコン				9	3	1	東京・通販1
家電	1			14	1		
高校(1)	4			12		1	9
(2)				5	1	6	
教習所				7	1	1	4形・古川・宮古1
図書館(1)	5			1	1		
(2)						4	2

表3-6 東和町

	東和町	紫波町	石鳥谷町	矢巾町	花巻市	盛岡市	北上市	遠野市	その他
病院(かぜ (手術	17	1	1			14	1		水沢1
(出産	2	1				5	1		
歯科	14					2	2		
買物(肉	14	1	1	1		1	1	1	江刺1
(魚	14	1	1	1		1			江刺1
(高級食材	3					6	4	3	江刺・通豚1
(ポロシャツ	2					10	1	6	
(外出着	1					5	5	8	仙台1
外食(1	10			1		5	1	3	
(2				1		8	6	4	水沢1
金融(1	17			1			1		江刺1
(2	12					1	1		
切符(飛行機	12					3	2	1	
(汽車	15			1		2	1		
書店(1	4		2			12		1	江刺1
(2						9	4	4	
パソコン	1					8	2	4	水沢1
家電	3					10	1	5	江刺1
高校(1	5	1	1	1	1	9	1	2	1
(2						6	6	4	水沢1
教習所		1				11		2	1山形・福島・江刺1
図書館(1	8			1	1	2	1	1	
(2				1		4	4	1	

第4章 島根県雲南地域における生活サポート機能の利用状況

1. 雲南地域の概況

雲南地域と呼ばれるのは、島根県の出雲市の南部の中山間地域の10町村（大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、掛合町、吉田村、頓原町、赤来町、仁多町、横田町）の領域である。各町村の2000年国勢調査による人口は次の通りである。合計7万人程度の人が住む。

大東町	14,606人	加茂町	6,737人		
木次町	10,079人	三刀屋町	8,561人		
掛合町	3,906人	吉田村	2,433人		
頓原町	3,099人	赤来町	3,443人		
仁多町	8,734人	横田町	7,956人	計	69,554人

この地域は従来、大原郡・飯石郡・仁多郡の3つの郡からなるが、大東町にある雲南総合病院を10か村の共同経営にして再出発して以来連携を強め、介護保険の実施を機に広域連合を結成して歩んできた。

この広域連合は、従来の松江広域市町村圏と出雲広域市町村圏のそれぞれ山間部が横に連携して生まれた、わが国は数少ないタイプである。町村の多くは、出雲市（人口87,330人）から、自動車で1時間から2時間の位置にある。県都松江市（152,618人）までは、もっとも近い大東町では1時間を切るが、他は1時間から2時間というところである。

基本的に多くの山と小盆地からなる中国山地の状況を持つこれらの町村は、谷沿いに水田が卓越した穏やかな風景を持ち、大東町・加茂町・木次町の大原郡では結構平地が多いが、飯石郡は、三刀屋町の中心部に平地が広がる他は次第に山がちとなり、掛合町・吉田村・頓原町・赤来町は山間地域である。むしろ最上流の赤来町は高原状の地形で、水田にも恵まれている。仁多郡の仁多町と横田町は木次町の上流にあたり、JR木次線が貫通していて、古くから上下流の関係は強い。現在では、JRの本数は少なく、通学する高校生が主たる日常的な利用者である。仁多郡からは、出雲市よりも松江市の方が近い。

加茂町は多数の銅鐸が出土して有名になり、吉田村と横田村はたたら製鉄の遺産を今に活かして集客施設をつくっている。

2. 通勤・通学データから見た地域間の関係

これらの地域の中には、いわゆる中心都市というものは存在しない。したがって平野部に近い地域からは、松江市や出雲市への通勤が多いことが考えられる。

表4-1にみるように、松江市に最も近い大東町は、町内就業・就学率は60%に満たない。松江市へは1,421人が通っており、少し道筋がずれる出雲市へは277人が通っているものの、域内で中心性が強い木次町への流出の方が多く、7%を超える。次いで加茂町・

三刀屋町というあたりが近隣としての関係であり、斐川町は平野部で企業の立地があるからということになる。

流入は流出の半分以下であり、近隣の加茂町・木次町が目立つのは妥当なところであろう。

加茂町はさらに中心性が強くなって、町内就業・就学率は50%に満たない。加茂町からは出雲市の方が松江市よりも近くなるが、流出は松江市の方が圧倒的に多く、これは、松江市の中心性が大きいことを示す。大東町・木次町へ通う人が出雲市への人よりも多いのが注目される。

流入は流出の半分以下であり、隣接する大東町・木次町・三刀屋町からが目立つ。

木次町は、県の出先や高校、誘致工場があるなど、この圏域では一応強い中心性を持ち、人口も1万人を超える。ここからは出雲市の方が松江市よりやや近いが、やはり松江市への流出の方が2倍以上を占める。しかし最大の流出先は三刀屋町であり、これは近年、三次市経由で広島市方面に通じる国道54号線の三刀屋町のロードサイドに多くの店舗が立地する状況が影響していると思われる。

流入人口が流出人口を800人程度上回っているところから、一応木次町の中心性の強さは確認できる。流入は大東町が最大で、三刀屋町がこれに次ぐ。木次町と三刀屋町の関係は、木次がわずかに入超である。JR木次線の沿線として連なる仁多町からも200人を超える流入があることは、古くからの地域間の関係が簡単に消えないことを示すかもしれない。

三刀屋町は木次町から大量の流入があるものの、全体としては出超である。流出先は木次町が最大で、ついで出雲市になる。ここでははっきり松江市よりも出雲市との関係が強い。流入は木次町からが特に多いが、近隣の町村からまんべんなく入ってきている。国道54号線沿いに量販店のロードサイドショップの立地が目立ち、近隣町村の中では買い物客をひきつけている。

掛合町は三刀屋町の上流になり、ここからは山間地とあってよい。通勤・通学は三刀屋町への流出が最も多く、ついで、さらに上流の頓原町、下流の木次町が多い。出雲市・松江市へはかなり遠いため、それらよりも低くなっている。流入も三刀屋町が最大で、ついで吉田村が多くなっているのは、より山間の吉田村に対しては吸引力があるということであろう。

吉田村は、かつてたたら製鉄で財をなした田部家の本拠地であるが、現在は大きな吸引力を持たない。下流になる三刀屋町・木次町・掛合町へ通う人が目立つ。吸引力がないため、流入はわずかである。

頓原町になると、木次町・三刀屋町との関係は薄くなり、さらに上流の赤来町との関係が強まる。そして、頓原町北西部は島根県西部の小都市である大田市(33,610人)に接しているためか、山越えで大田市に通う人があられる。

広島県境にある赤来町は、常住者の84%が、町内に通う。流出は下流の頓原町に目立つ

程度であり、さすがに出雲市・松江市のデータはあらわれない。それに対して、他県（広島県）への流出が目立つ。広島県の三次市へは、自動車で40～50分の所要時間であり、十分通勤が可能である。この点は圏域の他町村とはっきり異なる。流入は、下流の頓原町からが目立つ程度である。

頓原町・赤来町等とは別の支流の上流部になる仁多町は、さらに上流の横田町との関係が、流出入とも最も強い。下流の木次町とは、横田町同様JR木次線で古くから結ばれており、木次町への流出が横田町に次ぐ。ただし木次町からの流入はたいしたことはない。かなり遠距離にもかかわらず、松江市へかようひとが154人いるのが注目される。仁多町の出雲三成駅からJRの松江駅までは朝の唯一の直通列車で1時間40分を要するが、自動車では1時間程度で行くことができる。

横田町は鳥取・広島両県に接する県境の町であり、流出入ともに下流に隣接する仁多町との関係が際立っている。流出においては木次町がこれに次ぐが、流入においては、仁多町以外の市町村は目立たない。ここでも、松江市へ通う人が61人いるのが注目される。松江までの所要時間は、自動車でも1時間余りである。

3. 雲南地域における生活サポート機能の存在状況

雲南地域最大の病院は、10町村が共同経営している雲南総合病院（・・床）で、これは大東町にある。そのほか、仁多町に144床の仁多病院、三刀屋町に・・床の平成記念病院、頓原町に45床の頓原病院などがある。その他の町村には診療所がある。

商業集積が比較的に見られるのは、三刀屋町と横田町で、特に三刀屋町はロードサイドショップの展開が目立つ。三刀屋町にはビジネスホテルもある。横田町は県境の山村であるが、不便な県境に近い地域の中の小中心地として、地元資本のショッピングセンターが、それなりの集客力を見せている。商品のレベルも結構高い。

木次町はかつての商業中心であったが、商店街はかなりさびれている。駅前に再開発施設があり、ここにはホールとスーパー、食堂などが入っている。そのほか大東町には高度化資金を利用したおおきなきょうどうてんぽがあるが、他の町村はJA関連のAコープないしは小規模な共同店舗がある程度である。

高校は、大東・三刀屋・赤来・横田の各町にあり、横田高校には鳥取県の日南町の生徒も通ってくる。なお横田町には、島根デザイン学校という専門学校があり、他県からも学生を集めている。

木次町には自動車教習所がある。また、新しい研究機関として、島根県立の中山間地センターが赤来町につくられ、現在14人が勤務している。将来は45人程度の職場となる予定という。

また、大型の文化施設として、加茂町に〈ラ・メール〉という名の音楽ホールがあり、各種の公演のほかに、音楽グループの練習の場として活用されている。積極的に他町村のグループ活動を受け入れ、健全な経営を目指している。

4. 雲南地域における生活サポート機能の利用状況

同じように雲南地域 10 町村の各役場職員 20 名にアンケートを行い、生活サポート機能の利用状況を調査した。結果は表 4-11 から表 4-20 に示す。要点は以下の通りである。

(1) 大東町

大東町には耳鼻科や皮膚科をも持つ雲南総合病院があるため、一部の人が松江の県立病院と出雲の医大病院へ出るほかは、重い病気の場合も多くの人々がここを利用している。

日常の食材は町内で求める人がほとんどであるが、高級な食材や外食のレベルアップの際には逆にほとんどの人が松江市まで出かけている。これは圏域内で大東町が最も松江市に近いことも影響しているであろうが、やはり、県庁所在都市の強い吸引力を示している。

衣料については、日常的なものでも松江市が 1 位で、外出着になるとますます松江の支持が強まる。他の地域での調査においても、衣料の購入にはより遠くまで出かける傾向があったが、ここでもその傾向がみられることは興味深い。

通常の金融機関の利用は地元で充足しているが、住宅ローン等になると、木次町の中心性があらわれる。この傾向は旅行の切符などでもみられ、このレベルでは木次町の先に連なる三刀屋町は利用されていない。しかしパソコンという高級な商品になると、松江市や出雲市と共に、三刀屋町が利用されている。これは高級な商品の品揃えによる到達距離を示していると思われる。書店・図書館は共に、並みのものは地元、専門的なものは松江市と、はっきり分かれている。

(2) 加茂町

加茂町は大東町の隣であり、出雲市からは最も近い町である。重い病気の際はやはり大東町にある雲南総合病院が利用されているが、一部の人は松江市よりは出雲市へ出る傾向があるようである。ただし、高級な食材や衣料は松江市と出雲市が拮抗し、外出着になると松江市のほうが増える。外食もレベルアップの際は、松江市がはっきりと 1 位になる。

書店の利用、パソコン・家電製品の購入では出雲市の利用が多い。これらから、ファッションや外食においては、品揃えを要するとはいえ規格品的な物を購入する場合よりも、より高度な多様性を求める傾向があることがわかる。これも他の地域と同じ傾向である。

金融機関は、日常的には町内で充足しているが、やはり住宅ローン等で木次町との関係が少しだけみられる。

(3) 木次町

病院に関しては、大東町に接していることから、重いもので雲南総合病院の利用が多いことは、加茂町と同じである。

日常の食材の購入においても、高級食材の購入においても、地元以外に三刀屋町があら

われる。この傾向は外食、パソコン・家電製品の購入においても同様である。飛行機の切符の購入という新しい機能では、三刀屋町が強力に支持されている。木次町は、元来この圏域では中心性の強い町であったが、新しく三刀屋町が中心性を強めてきていることがこのデータからも窺われる。

ただし、外出着の購入においては出雲市、外食のレベルアップにおいては松江市と出雲市まで出かけることが多い。パソコンの購入も1位は出雲市である。書店は並みのもので地元、専門性の高いもので出雲市が使い分けられている。

(4) 三刀屋町

三刀屋町になると、重い病気の場合は、大東町の雲南総合病院よりも出雲市の医大病院の支持が増える。これは、大東町から距離が遠くなるためというよりは、三刀屋町と大東町の横の関係よりも、三刀屋町と出雲市との行き来が強かったことが影響していると考えられる。日常の情報の多寡による心理的な影響があることは興味深い。

日常の食材は地元、高級な食材は出雲市という使い分けがはっきりしているが、やはり衣料品は、日常のものでも出雲市が圧倒的に多く、外出着になると、出雲市に次いで松江市がかなり支持されている。ここでも衣料品の特性が発揮されている。外食のレベルアップも、出雲市に次いで松江市の支持が相当ある。

旅行の切符や家電製品は町内が圧倒的に多く、新しい機能の立地を示しているが、さすがにパソコンになると出雲市が1位になる。図書館は余り充実していないとみられ、木次町、次いで出雲市の利用が多い。この傾向は書店の利用においてもみられ、文化的機能では木次町の中心性が根強いことを示している可能性がある。

(5) 掛合町

掛合町は山間地域であり、商業機能等が相当低くなる。軽い病気は町内の診療所を利用するが、重い病気になると、ここでは圧倒的に出雲市の病院の利用が増える。時間的には大東町の雲南総合病院が近いが、やはり三刀屋町と同じく、出雲市の方に、より上位の病院という信頼と親近感を感じているせいとみられる。

日常の食材の購入においても、三刀屋町・木次町という、圏域内の小中心地の利用がみられ、高級食材になると出雲市の利用が多い。日常の外食も、出雲市が1位であり、地元以外に三刀屋町が支持されている。外食のレベルアップになると、松江市が1位で、出雲市が2位になるのが注目される。

衣料品は日常的なものでも出雲市が圧倒的に多く、外出着になると出雲市に次いで松江市の利用も目立つことは、他の町村と同じ傾向である。書店の利用も低いレベルから他町村の利用が目立ち、出雲市が僅差で1位である。図書館も出雲市の利用が多い。

家電製品の購入も出雲市の方が1位で、パソコンの購入は出雲市に次いで松江市へ出かけるという結果になる。

(6) 吉田村

吉田村は国道 54 号線から支谷に入った山村で、さらに人口は少なくなる。ここでは、軽い病気の際も、半数近くが他町村の医療施設を利用している。重い病気の場合には大東町の雲南総合病院の利用が多く、これは、山越えて木次町を経て大東町方面に出られる点で、時間距離を素直に反映している。

日常の食材の購入も、地元以外に三刀屋町・木次町があり、高級な食材についても三刀屋町・出雲市・松江市が拮抗している。「高級な」という理解は相対的なものであるため、地元の店の食材のレベルが低い場合には、三刀屋町の人が出雲市へ志向するのに比べて、吉田村の人は三刀屋町の商品を寄り高級に感じる可能性が、ここにあらわれているかもしれない。

日常の夕食、切符の購入、家電製品の購入は三刀屋町が支持され、書店は木次町が支持されている。いずれも高級化すると、外出着の購入と同じく、松江市が 1 位、出雲市が 2 位になる。

(7) 頓原町

頓原町は 54 号線にそって掛合町の上流になる地域であるが、重い病気の際は、ほとんどが出雲市を利用している。これはやはり、大東町に親近感がないせいかもしれない。三刀屋町・木次町からはかなり遠くなるためか、食料品店舗としては中規模の A コープの他は小規模店があるのみであるが、日常の食材はほとんど町内で購入されている。高級食材になると出雲市と松江市が拮抗し、これは衣料品においても同様である。外出着になると松江市の支持がやや高くなることは、他の町村と同じ傾向を示す。

夕食も日常的なものでも出雲市が 1 位で、域内の他の町村はあられない。レベルアップの際は、出雲市と松江市が拮抗する。

切符の購入に伝は三刀屋町の支持が高く、住宅ローン、書店、パソコンの購入について、木次町が少し利用されているが、レベルの高い書店、家電製品については出雲市が 1 位を占める。

さらに上流の赤来町にも高校があるため、高校進学は赤来・三刀屋両町が考えられている。赤来町の高校の吸引力は、頓原町までで、掛合町から下流には及んでいない。

(8) 赤来町

赤来町は、軽い病気の際も数人、重い病気の場合は多くの人が広島県三次市まで出る。県境にあるだけあって、広島県三次市への時間距離は、車で 40~50 分程度であり、他の町村とは違って、広島県側との関係が結構強い。町内に歯科がなく、やはり歯科においても三次市の利用が群を抜いて多い。

日常の食材の購入は地元が多いが、三次市の利用もある。この調査の対象者は三次市に

通勤している人ではないから、通勤者に関しては、三次市との関係はさらに強いことが考えられる。高級食材、日常的な衣料品、外出着、書店、パソコン、家電製品等々、すべて三次市が支持されている。

日常的な外食も三次市が圧倒的に多いが、レベルアップになると、三次市に加えて広島市が無視できない存在になることは、書店・図書館の利用と共に、ここでも地方中枢・中核都市の強い吸引力を示し、注目される。

(9) 仁多町

仁多町は、国道 34 号線沿いの山村地域とは違い、木次町の上流部になり、JR 木次線と国道 314 号線によって、平野部と繋がっている。この町には仁多病院があるため、重い病気でもここが利用されるケースが多い。さらにレベルの高い病院を必要とする人は、出雲市の大学病院が利用されている。

日常の食材は地元が圧倒的に多いが、高級食材になると、松江市が圧倒的に利用されている。ここではより上位の都市である松江市が出雲市よりも近いために、その差がはっきりと出ていると考えられる。この傾向は、日常的な衣料品においてもあらわれ、外出着や外食のレベルアップになるとさらに松江市の支持が強く、出雲市は影が薄い。パソコン・家電は地元と松江市が拮抗し、ある程度の吸引力を持つことを示す。書店・図書館はレベルが高くなると地元と松江市が逆転することもはっきりしている。

住宅ローンや切符の購入その他の買物等で、木次町の利用があつて三刀屋町の利用が余りないのは、木次線沿いの従来との関係が根強いことのあらわれかもしれない。

(10) 横田町

横田町は仁多町の上流部で、広島県と鳥取県に接している。重い病気は仁多町の仁多病院を利用する人が多く、大東町の雲南総合病院の利用もある。

前章で述べたように結構商品レベルの高い大型店舗が立地しており、県境を越えて買物に来る客も多い。高級食材や衣料品の購入においても、地元と松江市が拮抗していることは、松江市から遠いことがかえって周辺客をこの町に呼び込み、結果としてこの町の商店のレベルを上げていると考えられる。パソコン・家電製品においても一応地元の数値が最も高いことは、このことを裏書するのではなかろうか。ただ外食のレベルアップは松江市が圧倒的に利用され、レベルの高い書店もさすがになく、松江市の利用が圧倒的に多くなる。

総じて圏域内の他の町村との関係は強くない。ただ、住宅ローンの利用金融機関が木次町にあることは、かつての小中心地である木次町の根強い機能を示すと考えられる。

表4-1 大東町の通勤・通学者データ

町内	5,085	58.9%	町内	5,085	79.0%
流出	3,552	41.1%	流入	1,351	21.0%
201 松江市	1,421	16.5%	201 松江市	195	3.0%
203 出雲市	277	3.2%	203 出雲市	97	1.5%
206 安来市	29	0.3%	208 平田市	25	0.4%
208 平田市	26	0.3%	304 東出雲町	16	0.2%
304 東出雲町	61	0.7%	305 八雲村	11	0.2%
305 八雲村	30	0.3%	307 宍道町	95	1.5%
306 玉湯町	104	1.2%	341 仁多町	54	0.8%
307 宍道町	166	1.9%	342 横田町	21	0.3%
341 仁多町	46	0.5%	362 加茂町	320	5.0%
342 横田町	18	0.2%	363 木次町	285	4.4%
362 加茂町	250	2.9%	381 三刀屋町	96	1.5%
363 木次町	626	7.2%	382 吉田村	18	0.3%
381 三刀屋町	189	2.2%	383 掛合町	18	0.3%
383 掛合町	27	0.3%	401 斐川町	49	0.8%
401 斐川町	185	2.1%	その他の市町村	38	0.6%
その他の市町村	53	0.6%	他県	13	0.2%
他県	44	0.5%			
合計	8,637	100.0%	合計	6,436	100.0%

表4-2 加茂町の通勤・通学者データ

町内	1,900	47.9%	町内	1,900	65.8%
流出	2,068	52.1%	流入	989	34.2%
201 松江市	567	14.3%	201 松江市	91	3.1%
203 出雲市	214	5.4%	203 出雲市	76	2.6%
206 安来市	11	0.3%	208 平田市	19	0.7%
208 平田市	27	0.7%	305 八雲村	10	0.3%
304 東出雲町	16	0.4%	306 玉湯町	30	1.0%
306 玉湯町	33	0.8%	307 宍道町	89	3.1%
307 宍道町	180	4.5%	341 仁多町	15	0.5%
341 仁多町	10	0.3%	361 大東町	250	8.7%
361 大東町	320	8.1%	363 木次町	157	5.4%
363 木次町	287	7.2%	381 三刀屋町	105	3.6%
381 三刀屋町	157	4.0%	383 掛合町	13	0.4%
383 掛合町	21	0.5%	401 斐川町	67	2.3%
401 斐川町	165	4.2%	その他の市町村	43	1.5%
その他の市町村	49	1.2%	他県	24	0.8%
他県	11	0.3%			
合計	3,968	100.0%	合計	2,889	100.0%

表4-3 木次町の通勤・通学者データ

町内	3,576	62.5%	町内	3,576	54.9%
流出	2,149	37.5%	流入	2,937	45.1%
201 松江市	451	7.9%	201 松江市	212	3.3%
203 出雲市	216	3.8%	203 出雲市	291	4.5%
206 安来市	10	0.2%	208 平田市	59	0.9%
208 平田市	19	0.3%	305 八雲村	11	0.2%
304 東出雲町	12	0.2%	306 玉湯町	28	0.4%
306 玉湯町	25	0.4%	307 宍道町	84	1.3%
307 宍道町	76	1.3%	341 仁多町	212	3.3%
341 仁多町	49	0.9%	342 横田町	84	1.3%
342 横田町	30	0.5%	361 大東町	626	9.6%
361 大東町	285	5.0%	362 加茂町	287	4.4%
362 加茂町	157	2.7%	381 三刀屋町	583	9.0%
381 三刀屋町	552	9.6%	382 吉田村	95	1.5%
382 吉田村	25	0.4%	383 掛合町	81	1.2%
383 掛合町	69	1.2%	384 頓原町	17	0.3%
401 斐川町	91	1.6%	385 赤来町	13	0.2%
その他の市町村	56	1.0%	401 斐川町	138	2.1%
他県	26	0.5%	402 佐田町	13	0.2%
合計	5,725	100.0%	405 大社町	26	0.4%
			その他の市町村	42	0.6%
			他県	35	0.5%
			合計	6,513	100.0%

表4-4 三刀屋町の通勤・通学者データ

町内	3,047	60.2%	町内	3,047	64.7%
流出	2,012	39.8%	流入	1,663	35.3%
201 松江市	272	5.4%	201 松江市	61	1.3%
203 出雲市	443	8.8%	203 出雲市	154	3.3%
208 平田市	11	0.2%	208 平田市	28	0.6%
304 東出雲町	10	0.2%	307 宍道町	32	0.7%
306 玉湯町	17	0.3%	341 仁多町	62	1.3%
307 宍道町	44	0.9%	342 横田町	27	0.6%
341 仁多町	34	0.7%	361 大東町	189	4.0%
342 横田町	17	0.3%	362 加茂町	157	3.3%
361 大東町	96	1.9%	363 木次町	552	11.7%
362 加茂町	105	2.1%	382 吉田村	123	2.6%
363 木次町	583	11.5%	383 掛合町	146	3.1%
382 吉田村	24	0.5%	384 頓原町	28	0.6%
383 掛合町	153	3.0%	401 斐川町	46	1.0%
384 頓原町	25	0.5%	405 大社町	10	0.2%
385 赤来町	12	0.2%	その他の市町村	28	0.6%
401 斐川町	103	2.0%	他県	20	0.4%
その他の市町村	41	0.8%	合計	4,710	100.0%
他県	22	0.4%			
合計	5,059	100.0%			

表4-5 掛合町の通勤・通学者データ

町内			町内		
町内	1,573	72.0%	町内	1,573	73.3%
流出	613	28.0%	流入	572	26.7%
201 松江市	71	3.2%	201 松江市	24	1.1%
203 出雲市	80	3.7%	203 出雲市	48	2.2%
361 大東町	18	0.8%	341 仁多町	25	1.2%
362 加茂町	13	0.6%	361 大東町	27	1.3%
363 木次町	81	3.7%	362 加茂町	21	1.0%
381 三刀屋町	146	6.7%	363 木次町	69	3.2%
382 吉田村	17	0.8%	381 三刀屋町	153	7.1%
384 頓原町	89	4.1%	382 吉田村	95	4.4%
385 赤来町	25	1.1%	384 頓原町	28	1.3%
401 斐川町	17	0.8%	385 赤来町	13	0.6%
402 佐田町	11	0.5%	401 斐川町	15	0.7%
その他の市町村	39	1.8%	402 佐田町	13	0.6%
他県	6	0.3%	その他の市町村	33	1.5%
合計	2,186	100.0%	他県	8	0.4%
			合計	2,145	100.0%

表4-6 吉田村の通勤通学者データ

村内			村内		
村内	967	67.1%	村内	967	87.7%
流出	474	32.9%	流入	135	12.3%
201 松江市	38	2.6%	341 仁多町	25	2.3%
203 出雲市	29	2.0%	363 木次町	25	2.3%
341 仁多町	20	1.4%	381 三刀屋町	24	2.2%
361 大東町	18	1.2%	383 掛合町	17	1.5%
363 木次町	95	6.6%	その他の市町村	27	2.5%
381 三刀屋町	123	8.5%	他県	17	1.5%
383 掛合町	95	6.6%	合計	1,102	100.0%
その他の市町村	52	3.6%			
他県	4	0.3%			
合計	1,441	100.0%			

表4-7 頓原町の通勤・通学者データ

町内			町内		
町内	1,401	78.1%	町内	1,401	81.1%
流出	393	21.9%	流入	327	18.9%
201 松江市	15	0.8%	203 出雲市	18	1.0%
203 出雲市	29	1.6%	205 大田市	12	0.7%
205 大田市	42	2.3%	381 三刀屋町	25	1.4%
363 木次町	17	0.9%	383 掛合町	89	5.2%
381 三刀屋町	28	1.6%	385 赤来町	89	5.2%
383 掛合町	28	1.6%	その他の市町村	59	3.4%
385 赤来町	151	8.4%	他県	35	2.0%
その他の市町村	46	2.6%	合計	1,728	100.0%
他県	37	2.1%			
合計	1,794	100.0%			

表4-8 赤来町の通勤・通学者データ

町内	1,668	84.4%	町内	1,668	84.3%
流出	308	15.6%	流入	311	15.7%
363 木次町	13	0.7%	203 出雲市	16	0.8%
383 掛合町	13	0.7%	381 三刀屋町	12	0.6%
384 頓原町	89	4.5%	383 掛合町	25	1.3%
442 邑智町	11	0.6%	384 頓原町	151	7.6%
その他の市町村	34	1.7%	442 邑智町	26	1.3%
他県	148	7.5%	443 大和村	13	0.7%
合計	1,976	100.0%	その他の市町村	33	1.7%
			他県	35	1.8%
			合計	1,979	100.0%

表4-9 仁多町の通勤・通学者データ

町内	3,848	76.3%	町内	3,848	84.5%
流出	1,197	23.7%	流入	704	15.5%
201 松江市	154	3.1%	201 松江市	66	1.4%
203 出雲市	41	0.8%	203 出雲市	29	0.6%
206 安来市	20	0.4%	321 広瀬町	43	0.9%
307 宍道町	11	0.2%	342 横田町	342	7.5%
321 広瀬町	13	0.3%	361 大東町	46	1.0%
342 横田町	476	9.4%	362 加茂町	10	0.2%
361 大東町	54	1.1%	363 木次町	49	1.1%
362 加茂町	15	0.3%	381 三刀屋町	34	0.7%
363 木次町	212	4.2%	382 吉田村	20	0.4%
381 三刀屋町	62	1.2%	401 斐川町	10	0.2%
382 吉田村	25	0.5%	その他の市町村	42	0.9%
383 掛合町	25	0.5%	他県	13	0.3%
401 斐川町	13	0.3%	合計	4,552	100.0%
その他の市町村	24	0.5%			
他県	52	1.0%			
合計	5,045	100.0%			

表4-10 横田町の通勤・通学者データ

町内	4,018	85.8%	町内	4,018	85.8%
流出	666	14.2%	流入	665	14.2%
201 松江市	61	1.3%	201 松江市	26	0.6%
203 出雲市	22	0.5%	203 出雲市	11	0.2%
206 安来市	18	0.4%	321 広瀬町	22	0.5%
321 広瀬町	11	0.2%	341 仁多町	476	10.2%
341 仁多町	342	7.3%	361 大東町	18	0.4%
361 大東町	21	0.4%	363 木次町	30	0.6%
363 木次町	84	1.8%	381 三刀屋町	17	0.4%
381 三刀屋町	27	0.6%	その他の市町村	31	0.7%
その他の市町村	29	0.6%	他県	34	0.7%
他県	51	1.1%	合計	4,683	100.0%
合計	4,684	100.0%			

表4-12 加茂町

	大原郡				雲南広域				雲南域外				その他
	加茂町	大東町	木次町	三刀屋町	出雲市	松江市	平田市	斐川町	宍道町	松江市	平田市	斐川町	
病院(かぜ)	16	2				1							
(手術)		15			3	1							
(出産)		4			3	1							
歯科	14		4			1	1				1		
買物(肉)	13	1	1			1							玉湯1
(野菜)	11	1	1			1						1	玉湯1
(高級食材)	1				8	7						1	
(ホロシャツ)	3		1		9	7							
(外出着)	2				6	12							
外食(1)	4		1		7	5		1					
(2)					5	14		1					米子1
金融(1)	17									1			玉湯1
(2)			2							1			玉湯1
切符(飛行機)			2								2		
(汽車)	4		3										2
書店(1)	2		4			1				1	2		2
(2)			1			4							2
パソコン			2			4							
家電			2			2							
高校(1)		14				2				1			
(2)						13							
教習所			10			3				3			宇部・大阪1
図書館(1)	5		1			3				1			
(2)						2							

表4-13 木次町

	大原郡		雲南広域			雲南域外			その他
	木次町	大東町	三刀屋町	仁多町	出雲市	松江市	宍道町		
病院(かせ (手術 (出産 歯科	17 1 12 3 14	1 1 3 5		1	4 3	2 2		斐川1 横田1	
買物(肉 (野菜 (高級食材 (ホロシャツ (外出着	17 16 5 10 2		2 2 2 2	1 1 1		4 6 2 4		大阪1 大阪1	
外食(1 (2	6 3		6 1		6 5	6 6			
金融(1 (2	17 15		1 1						
切符(飛行機 (汽車	2 13		11 2	1		2 1	1	斐川1	
書店(1 (2	15 2			1	2 12	2 2	1 2		
パソコン 家電	2 7		2 9		10 4	1	通販・山口・京都1		
高校(1 (2		6 4	18		2	2 12		横田1 岡山・広島1	
教習所	15				1	1		平田・京都1	
図書館(1 (2	16				1 4	4			

表4-14 三刀屋町

	飯石郡		雲南広域		雲南域外		その他
	三刀屋町	木次町	大東町	出雲市	松江市		
病院(かぜ)	17	2					
(手術)	2		5	14			
(出産)	2		1	4			
歯科	20						
買物(肉)	17	1		2			
(野菜)	15	2		2			
(高級食材)	2			12	1		
(ポロシャツ)	3			13	2		
(外出着)	2			11	7		
外食(1)	6			11	2		
(2)	1	1		9	6		
金融(1)	18	2					
(2)	4	5			1		
切符(飛行機)	13			3			宍道町1
(汽車)	11	1		4			
書店(1)	8	5		7			
(2)	2	1		10	1		
パソコン	5	1		9	3		
家電	16			5	1		
高校(1)	17			3			
(2)	1			11	3		
教習所		12		2	1		大阪・福岡・奈良1
図書館(1)	1	11		5	3		
(2)	1			7			

表4-15 掛合町

	飯石郡				雲南広域				雲南域外				その他
	掛合町	三刀屋町	頓原町	木次町	大東町	出雲市	松江市						
病院(かぜ (手術 (出産 歯科	17				4	14			1				新潟・平田各1
買物(肉 (野菜 (高級食材 (ポロシャツ (外出着	7 11 1 1	3 1 1 1	1 1 1 1	4 3 1 1		2 1 11 13 11	1						斐川1 神戸1
外食(1 (2	5	4 1				8 6	2						広島1
金融(1 (2	17 10	1				1	1						
切符(飛行機 (汽車		14 10			3	3 5	1						
書店(1 (2	4	3 1		5 1		6 9	1						通販・広島1
パソコン 家電		1 6				8 12	6						大阪2 大阪2 平田1
高校(1 (2	2 1	16			1	6 6	1						岡山・大社1 大阪2 平田1
教習所				7		3	4						
図書館(1 (2	1			2		5 1	3 2						平田1

表4-16 吉田村

	飯石郡			雲南広域			雲南域外			その他
	吉田村	掛合町	三刀屋町	木次町	大東町	出雲市	松江市			
病院(かぜ (手術 (出産 歯科	11 2 1	2 1	2 8	2 8	2 14 2	1 6 1	1 1		斐川1 頼原1	
買物(肉 (野菜 (高級食材 (ポロシャツ (外出着	13 15 2 2		3 2 5 3 3	3 3 2 8 1	3 3 2 8			3 4 3 7 10		
外食(1 (2	3		6 1	2 1	2 1	3 6	3 9			
金融(1 (2	18 12		1 1	2 2						
切符(飛行機 (汽車	2 2		13 11	1 2		2 2	1 1			
書店(1 (2			6 2	11		1 6	10			
パソコン 家電	4		2 7	4 1		5 3	4 2	通販・下関1		
高校(1 (2			15			4 6	4 9	安来・平田1		
教習所				7		4	2	安来2		
図書館(1 (2	4 1		1	2		3 1	5			

表4-17 頓原町

	飯石郡				雲南広域				雲南域外			広島県		
	頓原町	赤来町	三刀屋町	木次町	出雲市	松江市	太田市	三次市	その他					
病院(かぜ)	19					1								
(手術)	2				16	2								
(出産)	10					2								
歯科	18		1											
買物(肉)	15				1	1	1						玉湯1	
(野菜)	16				1		1						玉湯1	
(高級食材)	4				8	7	1	1						
(ポロシャツ)	2				7	6	1	1						
(外出着)					8	11	1							
外食(1)	6				9	5								
(2)					9	9								
金融(1)	20													
(2)	14				2	1								
切符(飛行機)	5		8			1	1						ホツト1	
(汽車)	5		8			2	1						ホツト1	
書店(1)	4	1	1	2	7	4	1	1						
(2)			1		10	4							通販1	
パソコン	1		1	4	5	3							広島2大阪1	
家電	7		1		9	2							大阪1	
高校(1)		10	12		1	4	1							
(2)		1	2		9	11	1							
教習所				10		5	1						東広島2平田1	
図書館(1)	8					3	2							
(2)						4							大阪1	

表4-18 赤来町

	飯石郡			雲南広域			雲南域外			広島県			その他
	赤来町	頓原町	三刀屋町	木次町	松江市	出雲市	三次市	広島市	三次市	広島市	尾道1		
病院(かぜ (手術 (出産 歯科	13	2			1				2				
買物(肉 (野菜 (高級食材 (ポロシヤツ (外出着	14								4				
外食(1 (2	6								12				
金融(1 (2	16	1							2				
切符(飛行機 (汽車	2		1		2	1			3				斐川1
書店(1 (2	6	1			1	1			8				
パソコン 家電	5				1	1			9				
高校(1 (2	13		1		5				2				
教習所				7	5	1			2				東大阪・平田1
図書館(1 (2	4	1			2				2				

表4-19 仁多町

	仁多郡		雲南広域			雲南域外			鳥取県		広島県	
	仁多町	横田町	木次町	三刀屋町	大東町	松江市	出雲市	米子市	広島市	その他		
病院(かせ (手術	20				1					1		
(出産	7				1							
歯科	11	5	1			1					玉湯1	
買物(肉	17		3			2	1					
(野菜	18					1						
(高級食材	7					10	2					
(ポロシャツ	5		2		1	7	4	1			通販1	
(外出着	1		1			12	4	1	1		斐川・通販1	
外食(1	11	1	1			6	1		1			
(2	3					14	1	1				
金融(1	19										斐川2	
(2	7		6									
切符(飛行機	4		4	2		3	3					
(汽車	13	1	3			2						
書店(1	14					4	3					
(2						14	3	1	1			
パソコン	6			3		5	3		1		斐川・通販1	
家電	7			3		7	3				広瀬1	
高校(1	2	17		9	1	2						
(2				6	4	11	2					
教習所	2					5					安来・益田・上越1	
図書館(1	11		7			2						
(2						8			1			

表4-20 横田町

	仁多郡		雲南広域			雲南域外			その他
	横田町	仁多町	木次町	大東町	三刀屋町	松江市	出雲市		
病院(かせ (手術 (出産	10 2 4	2 7 4		3		1 1	1		
歯科	13								
買物(肉 (野菜	13 13	1							
(高級食材	6					5	1		
(ボロシャツ	7		1			5			
(外出着	4					7	3		
外食(1 (2	8 1				1	2 11	1		
金融(1 (2	5 10		3						
切符(飛行機 (汽車	5 10					5 1		斐川1	
書店(1 (2	12 3					1 10			
パソコン 家電	5 6				1	3 4	4 1		
高校(1 (2	13			1	2	10			
教習所			7			1	1	京都・前橋1	
図書館(1 (2	3	2 1				1 1	2		

第5章 熊本県阿蘇地域における生活サポート機能の利用状況

1. 阿蘇地域の概況

ここで阿蘇地域としたのは、熊本県の阿蘇郡 12 町村である。阿蘇山のカルデラの中と外輪山の裾野に広がる町村で、西部に位置する町村を除き、県都熊本市までの時間距離は 1 時間以上を要する。2000 年センサスによる各町村の人口は以下の通りである。

小国町	8,949 人	南小国町	4,656 人
産山村	1,824 人	波野村	1,734 人
一の宮町	10,056 人	阿蘇町	18,665 人
高森町	7,300 人	蘇陽町	4,668 人
白水村	4,583 人	長陽村	5,306 人
久木野村	2,547 人	西原村	5,727 人
		計	76,015 人

このうち、阿蘇町と一の宮町は、阿蘇山のカルデラの中の北側の平坦地に主としてあり、水田が広がる。一の宮町にはその名が示すとおり、熊本県の屈指の神社である阿蘇神社があり、阿蘇町には古くからの温泉町である内牧温泉がある。

南小国町と小国町は、阿蘇山の外輪山の北側の裾野にあり、筑後川の最上流地域を形成する。産山村・波野村は、阿蘇山の東側の外輪山の外側の高原地帯である。南郷谷と呼ばれる阿蘇カルデラの南側は、久木野村・白水村・高森町があり、さらに南の裾野に蘇陽町がある。

外輪山が切れる西側の凹凸のある場所に長陽村があり、外輪山の西側は西原村である。西原村になると熊本市まで 40 分程度であり、十分通勤が可能である。宅地開発も進み、人口増加を見せている。

阿蘇山周辺は古くからの観光地であり、温泉も随所に湧き、近年では自治体や第三セクターが経営する宿泊施設も増えた。新しいタイプのペンションなども多い。カルデラの中の平坦地は水田地帯であるが、外輪山およびその裾野は多く草山となっており、主として赤牛が放牧されている。北側の外輪山から大分県の久住山に続く草原は雄大で、貴重な風景である。これらの景観を維持するために、毎年 3 月に野焼きが行われる。

2. 通勤・通学データからみた町村間の関係

阿蘇郡 12 町村の通勤・通学データを<表 5-1>から<表 5-12>までに示す。

最も北側に位置する小国町は、大分県境になり、南に接する南小国町との関係が、出入

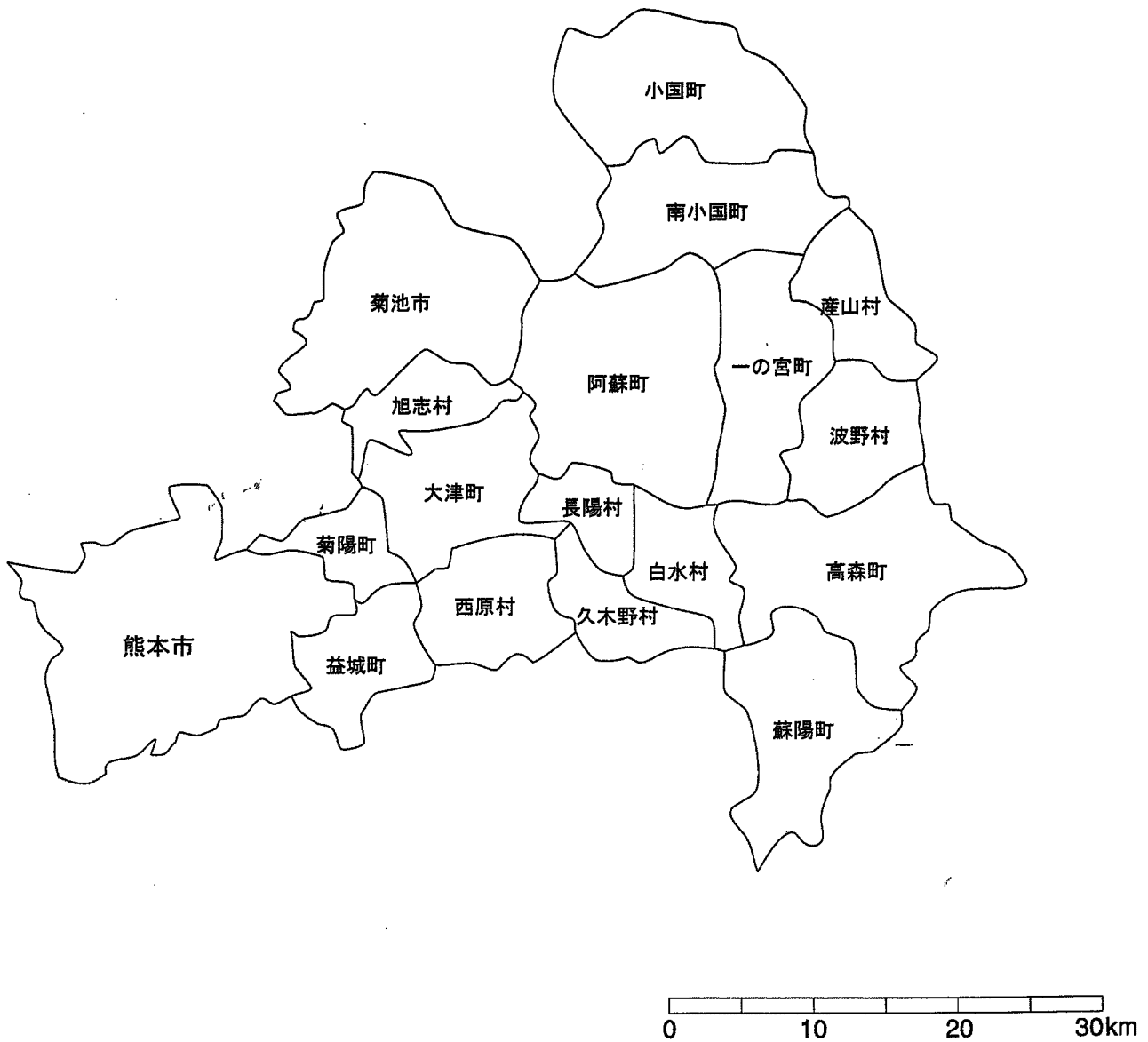


図5-1 阿蘇・小国地域とその周辺

り共に緊密である。阿蘇町がそれに次ぐが、大分県側の大山町・日田市等に通っている人がそれよりも多いとみられる。熊本市へ通っているのはわずかで、1時間20分程度の時間距離は、やはり通勤には無理なことを示している。

南小国町は、通勤・通学者の15%以上が小国町へ通っている。小国町から南小国町へ通うのは8%程度であるから、小国町のほうが中心性が高いことになるが、いずれにしてもこの二つの町は、他から孤立して極めて緊密な関係にある。両者の合併が検討されていることは妥当であろう。

産山村は、畜産が盛んな大分県境の山村であり、吸引力のある施設は余り存在しない。隣接する一の宮町への流出が最も多いが、それも8%に満たない。企業の立地が少ないため、流出が流入を大きく上回る。大分県との出入りも無視できない程度に存在することがわかる。

波野村は、やはり隣接する一の宮町、さらにその先の阿蘇町への流出が目立ち、やはり、流出が流入を大きく上回る。産山村の村内就業・就学率が80%近くに対して、ここでの70%という数値は、就業の場が少ないことを物語っている。

一の宮町は、熊本県の阿蘇地域振興局があるなど、かなりの中心地機能を有する。隣の阿蘇町から1,357人が流入するのを始め、熊本市からの流入もそれに次ぐ。それに次ぐのは外輪山を西に出たところにある大津町で、その他、カルデラに近い町村から少しずつ流入している。

流出も隣合う阿蘇町が最大であり、ついで熊本市・大津町の順に多い。流入が流出のちょうど2倍あり、中心地機能が発揮されていることがわかる。

阿蘇町は域内最大の人口を有するが、流入よりは流出の方が1.5倍程度多い。30%近くが流出している。隣の一の宮町に大量に通っているのを始め、熊本市へも500人以上が通う。この辺りからが県都熊本市へ大量の通勤がみられる限界かもしれない。次いで大津町・長陽村が目立ち、内牧温泉を持つ町でありながら流出が多い。ロードサイドにかなりの店舗集積が見られるが、データに余り反映するものにはなっていない。

流入は一の宮町、熊本市、大津町、長陽村の順に多い。

高森町は流入も流出も30%程度であり、拮抗している。阿蘇火山の反対側になる一の宮町へは、さほど多くの人に通っていない。西に隣接する白水村からの流入が最も多く、次いで南に隣接する蘇陽町からの流入が多い。

流出は白水村に次いで熊本市・長陽村と続き、かなり遠いにもかかわらず、熊本市へ通

う人が 141 人、3.6%を占めるのが注目される。

蘇陽町は、その名の通り阿蘇山の南斜面にある。流出人口が流入人口を上回り、さしたる吸引力はない。流出は北隣の高森町が最大で、続いて、西に清和村をはさむ矢部町が多いのが注目される。流入は清和村からが多く、より農村的な地域からいくらか人をひきつけていることがわかる。

白水村は、流出人口が流入人口の 2 倍以上ある。最大の流出先は高森町であるが、熊本市もそれに劣らず多い。次いで大津町と、外輪山の西側へ出る人がかなり上る。流入は高森町からが目立つ程度でさしたる特徴はない。

阿蘇火山の西側に位置する長陽村になると、流出人口は熊本市に通う人が最大になる。続いての大津町も外輪山の西の外側で、これにカルデラの中の阿蘇町が続く。

農山村であるにもかかわらず、流入人口の方が多いのが特徴で、これはかなりの集客を誇る<阿蘇ファームランド>、ゴルフ場、多くの温泉宿泊施設などが職場として存在することが大きく影響していると考えられる。阿蘇町からの流入が最も多く、阿蘇町に対しても入超である。熊本市からも 200 人を超える人が通い、近隣からまんべんなく流入していることが分かる。

久木野村は長陽村ほど集客施設はなく、流出人口が流入人口の 2 倍を上回る。最大の流出先は熊本市で、次いで長陽村である。流入は近隣からが多く、特に目立った特徴はない。

西原村は完全に外輪山の外になり、熊本市への通勤は容易である。熊本市に近い部分には企業もかなり立地し、流入人口が流出人口を 500 人程度上回る。阿蘇 12 町村の中では、他と大きく性格を異にする地域である。

流入は熊本市からが 779 人、20%を占め、空港のある益城町から 335 人、大津町から 274 人と、かなり大きな数が通ってきている。流出先も熊本市が 20%と大きく、やはり大津町・益城町がこれに次ぐ。

3. 阿蘇地域における生活サポート機能の存在状況

阿蘇地域における大きな病院（100 床以上）は、阿蘇町に二つ（阿蘇温泉病院、阿蘇中央病院）、一の宮町に大阿蘇病院と精神科系の阿蘇やまなみ病院の二つがある。この他に、小国町に南小国町と共同経営の小国公立病院が、一応の総合病院としてある。

学校関係では、九州東海大学阿蘇校舎が長陽村にある。高校は県立の普通高校が、一の宮町、小国町、高森町、蘇陽町にあり、農業高校が一の宮町にある。小国町には県立の養護学校があり、阿蘇町には、郡医師会の準看護高等専修学校がある。このほか一の宮町に

は自動車教習所がある。

観光地として大型の温泉旅館やリゾートホテルは多いが、ビジネスホテルは一の宮町と阿蘇町にそれぞれ1軒あるのみである。旅行エージェントは、一の宮町、阿蘇町、高森町、小国町にそれぞれ一つずつあり、適当に散らばっている。

量販店は、阿蘇町の国道57号線沿いに立地する、外部資本のロードサイドショップが最も目立つ。一の宮町にも、家電製品のベスト電器を始め、多くの店が立地している。ただ、パソコンの品揃えはないといってよい。

4. 阿蘇地域における生活サポート機能の利用状況

この地域でも同じように12町村の自治体職員各20名にアンケートをとった（西原村は10名のみ回収）。<表5-13>から<表5-24>にその結果を示す。以下がその概略である。なお、このアンケートは一部において他の地域で行ったものと異なる部分がある。

(1) 小国町

阿蘇郡の最北にあり、大分県日田市方面との関係があらわれる。軽い病気についても、わずかながら日田市へ行く人がいる。中程度の医療は公立病院が支持されているが、高度医療になると、熊本市の国立病院や赤十字病院が支持される。ここでもわずかながら日田市との関係がある。

日常の食材は地元で、高級な食材も一部熊本市へ出る程度であるが、高級な衣料品になると熊本市が圧倒的に多くなる。外食のレベルアップも熊本市が1位になり、ここには日田市に加えて、福岡市という回答があらわれることも興味深い。旅行の手配は町内で済ませている人が多く、書店は、レベルによって地元と熊本市が使い分けられている。家電製品は地元で購入する人が多いが、パソコンは熊本市が圧倒的に多くなる。

自動車学校の利用は、一の宮町よりも熊本市や日田市が多いのが注目され、ある程度の距離を通うのであれば、より上位の都市が選択される可能性を示唆している。

(2) 南小国町

病院の利用に関しては、高度医療は熊本市へというように、小国町と同様の傾向を示すが、日田市との関係は弱くなっている。

大型店舗の立地があまりなく、日常の食材の購入においても、より上位の小国町の利用が目立つが、高級食材になると一部熊本市が、高級衣料になると圧倒的に熊本市が支持されている。通常の外食は小国町ないし熊本市、レベルアップするときは熊本市という傾向ははっきりしているが、わずかながら日田市の利用があるのが、この地域の特徴であろう。

切符の手配通常の書店の利用は小国町に依存しているが、パソコンだけではなく、家電製品も熊本市の利用が多い。ここでも、ある程度の移動を必要とするときには、多少遠くても上位の都市の利用に傾くことを示唆される。

(3) 産山村

産山村には病院はなく、手術を要するような病気になると、阿蘇町の病院を通り越して熊本市まで行く傾向があることがわかる。なお、大分県竹田市の支持がわずかながらあるが、これも産山村の位置を反映している。

あまり商業施設の立地がないため、日常の食材も一の宮町ないし阿蘇町に依存している。高級な食材になると熊本市まで行く人がかなりいるが、高級衣料についてはさらに熊本市の支持が高い。通常の外食は一の宮町であるが、やはりレベルアップの際は熊本市が圧倒的に多くなる。金融機関もかなり一の宮町の利用があり、切符の手配も一の宮町に依存しているが、家電は一の宮町と熊本市が拮抗し、パソコンになると熊本市の支持が圧倒的になる。

(4) 波野村

波野村は阿蘇地域の中で最も人口が少なく、中心性は弱い。風邪程度の病気でも一の宮町や阿蘇町へでるひとがいて、少し重い病気になると、一気に熊本市まで行ってしまう人が多いことがわかる。

日常の食材の多くは阿蘇町で購入されているが、これはロードサイドショップの利用が多いと思われる。また、竹田市の利用がわずかながらある。高級な食材となるとかなり散らばるが、衣料品は、日常的なものでも熊本市が1位になり、高級衣料になると圧倒的に熊本市が支持されるのは、他の地域の傾向と似ている。これは外食のレベルアップにおいても同じである。

切符の手配など一の宮町に依存している機能は多いが、同時に、家電などについてもかなり遠い熊本市の利用があることは、心理的な満足を求めてそちらに吸引されるとはいえ、結構移動にエネルギーを使う生活であるといえよう。

(5) 一の宮町

一の宮町は、圏域内では中心性の強い町である。病院もある。しかし少し重い病気になると、熊本市の利用が圧倒的に多くなることが注目される。買物系では、日常的には町内もしくは阿蘇町で、レベルアップの際には熊本市でという構図が、基本的にはっきりしている。隣の阿蘇町との往来は容易で、好みによって支持が分かれる程度であろう。熊本市への途中にある大津町の利用も根強いものがある。ただ、高級衣料になると、他の町村と同様、熊本市が圧倒的に支持されている。

(6) 阿蘇町

阿蘇町の場合も、地元には病院はあるのだが、少し重い病気になると、熊本市へ出る人が

多い。

ロードサイドショップは阿蘇町の方が充実しており、日常の食材はほとんど町内で購入されている。しかし衣料品になると、日常のものでも熊本市が1位になり、高級品に至っては圧倒的に熊本市が支持される。これは他の地域同様、根強い傾向である。ここでは日常的な外食も熊本市という回答が1位になる。温泉観光地であるがゆえに、地元での外食行動が少ないのかもしれない。レベルアップの際ももちろん熊本市が支持されている。

金融機関は町内で充足し、書店や図書館はレベルによって地元と熊本市が使い分けられている。家電製品やパソコンは共に量販店が阿蘇町にはなく、熊本市へ出かける人が多い。

(7) 高森町

高森町には入院できる病院はなく、少し重い病気の際にはほとんど熊本市まで出る。

日常の食材の購入はほとんど地元で行われているが、高級な食材になると、熊本市あるいは熊本市方向にある大津町・菊陽町などの利用があらわれる。日常の衣料品は地元と熊本市、菊陽町などが拮抗するが、高級衣料品になると、やはり熊本市の支持が高い。外食のレベルアップにおいても同じである。

住宅ローンで熊本市の金融機関を利用している人の存在が注目される。また、地元には旅行代理店があるが、旅行の手配で熊本市の利用が勝るなど、かなり遠距離にあるにもかかわらず、熊本市への依存が大きい。書店はレベルに応じて地元と熊本市が使い分けられている。

(8) 蘇陽町

蘇陽町は阿蘇郡で最も南に位置し、熊本市からはかなり遠距離にある。病院の利用に関しては、軽い病気は地元の診療所、少し重くなると熊本市という傾向ははっきりしている。

町内にはあまり商業集積はなく、すぐ近くに商業中心地もない。このことは、日常の食材の購入場所がかなり散在していることにもあらわれている。この中には西に清和村をささむ矢部町も含まれている。熊本市までかなり遠いためか、高級な食材においても、地元が1位を占め、熊本市は2位である。ただし他の町村と同様、高級な衣料品については、熊本市が圧倒的な支持を受けている。

旅行の手配など地元にはない機能は、ほとんど熊本市に依存しているが、このことは、やはりかなりの移動エネルギーの消費となっているであろう。

(9) 白水村

白水村は高森町と長陽村の間にあり、総合病院はないため、軽い病気は地元、少し重くなると熊本市という使い分けがはっきりしている。

また、中程度のスーパーマーケットもないため、日常の食材の購入は高森町に依存して

いる。高級な食材になると熊本市が 1 位になり、衣料品は日常的なものでも熊本市、高級なものになるとさらに熊本市が支持される。日常的な外食も熊本市が 1 位になるのは、地元以外に外食産業が発達していないことと、熊本市までの時間が何とか耐えられるものであることを示していよう。

金融機関においても地元以外に高森町の利用が目立ち、旅行の手配は熊本市と阿蘇町が拮抗する。書店も大津町、菊陽町、熊本市というように利用され、家電・パソコンは基本的に熊本市を利用する。

(10) 長陽村

長陽村は集客施設が多いところであるが、住民の生活サポート機能は充足しているとは言い難い。病気に関して、風邪程度の軽いものは地元、少し重くなると熊本市という構図ははっきりしている。

日常の食材についても、熊本寄りでロードサイドショップが多く立地している大津町、さらに熊本寄りの菊陽町の利用が目立つ。そして高級食材は熊本市が 1 位となり、衣料品は日常的なものでも熊本市が 1 位、大津町と菊陽町もある程度の支持がある。外食は日常的なものでも熊本市が 1 位であるが、レベルアップの際はさらに圧倒的となる。

旅行の手配は熊本市、書店はレベルによって大津町と熊本市が使い分けられている。そしてここまで来ると、自動車教習所は、一の宮町よりも菊陽町のものが支持されている。図書館の利用、家電製品やパソコンの購入は、基本的に熊本市である。

(11) 久木野村

久木野村もあまり中心的施設はなく、少し重い病気になると熊本市に出る傾向がはっきりしている。

日常的な食材の購入は大津町が中心で、レベルアップするときは熊本市が 1 位で大津町が次ぐ。衣料品は日常的なものでも熊本市が 1 位で、高級衣料品になると、やはり圧倒的に熊本市になる。外食も日常的なものから熊本市が 1 位で、レベルアップの際はさらに支持が高い。

金融機関は、住宅ローンの利用で高森町の利用が多いのが目立つ。旅行の手配は熊本市が多く、書店は大津町と熊本市が使い分けられている。

(12) 西原村

西原村は、熊本市に近く、企業の立地が多い割には、幹線道路沿いにならないため、店舗の立地等は少ない。軽い病気の際も熊本市や大津町の医療機関の利用が見られ、少し重くなるとすべて熊本市に出る。

日常の食材は大津町が最も多く利用され、高級な食材になると熊本市が 1 位になる。衣料品は日常的なものでも熊本市の利用が多く、高級衣料品になると、ほとんど熊本市での

利用となる。旅行の手配、書店の利用、図書館の利用、自動車教習所など、多くの機能はほとんど熊本市で充足されている。住宅ローンも熊本市の利用が最も多くなるのは、この圏域で西原村だけである。

表5-1 小国町の通勤・通学者データ

町内	4,285	87.4%	町内	4,285	86.1%
流出	617	12.6%	流入	694	13.9%
201 熊本市	26	0.5%	201 熊本市	31	0.6%
403 大津町	10	0.2%	403 大津町	14	0.3%
421 一の宮町	38	0.8%	421 一の宮町	16	0.3%
422 阿蘇町	59	1.2%	422 阿蘇町	37	0.7%
423 南小国町	328	6.7%	423 南小国町	410	8.2%
その他の市町村	18	0.4%	その他の市町村	45	0.9%
他県	138	2.8%	他県	141	2.8%
合計	4,902	100.0%	合計	4,979	100.0%

表5-2 南小国町の通勤・通学者データ

町内	2,105	78.5%	町内	2,105	
流出	577	21.5%	流入	492	18.9%
201 熊本市	28	1.0%	201 熊本市	28	1.1%
421 一の宮町	35	1.3%	421 一の宮町	21	0.8%
422 阿蘇町	33	1.2%	422 阿蘇町	27	1.0%
424 小国町	410	15.3%	424 小国町	326	12.6%
その他の市町村	17	0.6%	425 産山村	16	0.6%
他県	54	2.0%	その他の市町村	25	1.0%
合計	2,682	100.0%	他県	47	1.8%
			合計	2,597	100.0%

表5-3 産山村の通勤・通学者データ

村内	883	79.3%	村内	883	83.9%
流出	231	20.7%	流入	169	16.1%
201 熊本市	19	1.7%	421 一の宮町	38	3.6%
421 一の宮町	86	7.7%	422 阿蘇町	22	2.1%
422 阿蘇町	37	3.3%	426 波野村	16	1.5%
423 南小国町	16	1.4%	その他の市町村	40	3.8%
その他の市町村	30	2.7%	他県	53	5.0%
他県	43	3.9%	合計	1,052	100.0%
合計	1,114	100.0%			

表5-6 阿蘇町の通勤・通学者データ

町内	7,363	71.1%	町内	7,363	78.6%
流出	2,986	28.9%	流入	2,001	21.4%
201 熊本市	558	5.4%	201 熊本市	285	3.0%
210 菊池市	28	0.3%	210 菊池市	15	0.2%
402 旭志村	15	0.1%	403 大津町	245	2.6%
403 大津町	337	3.3%	404 菊陽町	76	0.8%
404 菊陽町	66	0.6%	405 合志町	38	0.4%
405 合志町	25	0.2%	407 西合志町	17	0.2%
407 西合志町	23	1.7%	421 一の宮町	684	7.3%
421 一の宮町	1,357	13.1%	423 南小国町	33	0.4%
423 南小国町	27	0.3%	424 小国町	59	0.6%
424 小国町	37	0.4%	425 産山村	37	0.4%
425 産山村	22	0.2%	426 波野村	64	0.7%
426 波野村	12	0.1%	428 高森町	70	0.7%
428 高森町	28	0.3%	429 白水村	52	0.6%
429 白水村	21	0.2%	430 久木野村	33	0.4%
430 久木野村	15	0.1%	431 長陽村	165	1.8%
431 長陽村	268	2.6%	432 西原村	17	0.2%
432 西原村	33	0.3%	443 益城町	22	0.2%
443 益城町	25	0.2%	その他の市町村	63	0.7%
その他の市町村	53	0.5%	他 県	26	0.3%
他 県	36	0.3%			
合計	10,349	100.0%	合計	9,364	100.0%

表5-7 高森町の通勤・通学者データ

町内	3,138	79.9%	町内	3,138	80.0%
流出	788	20.1%	流入	783	20.0%
201 熊本市	141	3.6%	201 熊本市	77	2.0%
403 大津町	76	1.9%	403 大津町	65	1.7%
404 菊陽町	13	0.3%	404 菊陽町	11	0.3%
421 一の宮町	46	1.2%	421 一の宮町	23	0.6%
422 阿蘇町	70	1.8%	422 阿蘇町	28	0.7%
427 蘇陽町	31	0.8%	427 蘇陽町	111	2.8%
429 白水村	158	4.0%	429 白水村	247	6.3%
430 久木野村	42	1.1%	430 久木野村	70	1.8%
431 長陽村	128	3.3%	431 長陽村	46	1.2%
その他の市町村	55	1.4%	その他の市町村	50	1.3%
他 県	28	0.7%	他 県	55	1.4%
合計	3,926	100.0%	合計	3,921	100.0%

表5-8 蘇陽町の通勤・通学者データ

町内	2,155	80.6%	町内	2,155	86.5%
流出	520	19.4%	流入	336	13.5%
201 熊本市	73	2.7%	201 熊本市	26	1.0%
403 大津町	20	0.7%	403 大津町	10	0.4%
404 菊陽町	15	0.6%	428 高森町	31	1.2%
421 一の宮町	14	0.5%	429 白水村	10	0.4%
428 高森町	111	4.1%	445 矢部町	21	0.8%
429 白水村	33	1.2%	446 清和村	58	2.3%
431 長陽村	19	0.7%	その他の市町村	41	1.6%
445 矢部町	86	3.2%	他 県	139	5.6%
446 清和村	52	1.9%	合計	2,491	100.0%
その他の市町村	46	1.7%			
他 県	51	1.9%			
合計	2,675	100.0%			

表5-9 白水村の通勤・通学者データ

村内	1,630	62.7%	村内	1,630	79.4%
流出	971	37.3%	流入	424	20.6%
201 熊本市	215	8.3%	201 熊本市	39	1.9%
403 大津町	130	5.0%	403 大津町	34	1.7%
404 菊陽町	19	0.7%	404 菊陽町	10	0.5%
421 一の宮町	37	1.4%	422 阿蘇町	21	1.0%
422 阿蘇町	52	2.0%	427 蘇陽町	33	1.6%
427 蘇陽町	10	0.4%	428 高森町	158	7.7%
428 高森町	247	9.5%	430 久木野村	44	2.1%
430 久木野村	57	2.2%	431 長陽村	38	1.9%
431 長陽村	115	4.4%	432 西原村	14	0.7%
432 西原村	17	0.7%	その他の市町村	29	1.4%
その他の市町村	66	2.5%	他 県	4	0.2%
他 県	6	0.2%			
合計	2,601	100.0%	合計	2,054	100.0%

表5-10 長陽村の通勤・通学者データ

村内	2,086	63.9%	村内	2,086	62.1%
流出	1,180	36.1%	流入	1,273	37.9%
201 熊本市	381	11.7%	201 熊本市	222	6.6%
210 菊池市	11	0.3%	403 大津町	154	4.6%
402 旭志村	10	0.3%	404 菊陽町	53	1.6%
403 大津町	265	8.1%	405 合志町	14	0.4%
404 菊陽町	45	1.4%	407 西合志町	10	0.3%
405 合志町	15	0.5%	421 一の宮町	66	2.0%
407 西合志町	18	0.6%	422 阿蘇町	268	8.0%
421 一の宮町	79	2.4%	427 蘇陽町	19	0.6%
422 阿蘇町	165	5.1%	428 高森町	128	3.8%
428 高森町	46	1.4%	429 白水村	115	3.4%
429 白水村	38	1.2%	430 久木野村	107	3.2%
430 久木野村	31	0.9%	443 益城町	16	0.5%
432 西原村	18	0.6%	その他の市町村	70	2.1%
その他の市町村	48	1.5%	他県	31	0.9%
他県	10	0.3%			
合計	3,266	100.0%	合計	3,359	100.0%

表5-11 久木野村の通勤・通学者データ

村内	914	61.8%	村内	914	79.1%
流出	565	38.2%	流入	242	20.9%
201 熊本市	124	8.4%	201 熊本市	37	3.2%
403 大津町	84	5.7%	403 大津町	30	2.6%
404 菊陽町	14	0.9%	422 阿蘇町	15	1.3%
421 一の宮町	25	1.7%	428 高森町	42	3.6%
422 阿蘇町	33	2.2%	429 白水村	57	4.9%
428 高森町	70	4.7%	431 長陽村	31	2.7%
429 白水村	44	3.0%	その他の市町村	26	2.2%
431 長陽村	107	7.2%	他県	4	0.3%
443 益城町	10	0.7%			
その他の市町村	53	3.6%			
他県	1	0.1%			
合計	1,479	100.0%	合計	1,156	100.0%

表5-12 西原村の通勤・通学者データ

村内	1,908	56.4%	村内	1,908	49.4%
流出	1,473	43.6%	流入	1,953	50.6%
201 熊本市	704	20.8%	201 熊本市	779	20.2%
208 山鹿市	20	0.6%	210 菊池市	30	0.8%
210 菊池市	18	0.5%	341 城南町	14	0.4%
403 大津町	274	8.1%	385 植木町	20	0.5%
404 菊陽町	80	2.4%	402 旭志村	16	0.4%
405 合志町	32	0.9%	403 大津町	274	7.1%
406 泗水町	13	0.4%	404 菊陽町	120	3.1%
407 西合志町	18	0.5%	405 合志町	30	0.8%
422 阿蘇町	17	0.5%	406 泗水町	27	0.7%
429 白水村	14	0.4%	407 西合志町	36	0.9%
443 益城町	187	5.5%	422 阿蘇町	33	0.9%
その他の市町村	84	2.5%	429 白水村	17	0.4%
他県	12	0.4%	431 長陽村	18	0.5%
			441 御船町	60	1.6%
			443 益城町	335	8.7%
合計	3,381	100.0%	その他の市町村	125	3.2%
			他県	19	0.5%
			合計	3,861	100.0%

表5-13 小国町

	町内			町外					その他
	小国町	南小国町	熊本市	大津町	一の宮町	阿蘇町	日田市	福岡市	
病院(かぜ)	18							1	1
病院(手術)	7		0					3	1
病院(高度)			9					2	1
病院(出産)	14		14						菊池1
病院(産科)	20								
買い物(肉・魚)	18				1				
買い物(野菜)	19								
買い物(高級食材)	11		5		1				1
買い物(衣料)	12		5						1 菊陽1
買い物(高級衣料)	2		15					1	1
外食(1)	16		2						
外食(2)	5	1	9					2	3
金融機関(1)	18	1							
金融機関(2)	9	1							
手配(飛行機)	14	2	2						1 ネット1
手配(電卓)	12	2	1						1 ネット1
手配(外国)	11	2	4						1 東京1 ネット1
書店(1)	18		2						1
書店(2)	2		15						2
学校(1)			4		1	2		5	1
学校(2)			17			1		5	4
自動車学校			5			3	1	5	2 大分2 菊陽1
図書館(1)	12		3						
図書館(2)									
一般電化製品	11	1	5		1			4	菊陽1
コンピュータ一環	3	2	15		1			1	

表5-14 南小国町

	町内		町外					県外				
	南小国町	小国町	熊本市	大津町	菊陽町	阿蘇町	一の宮町	日田市	その他			
病院(かぜ)	10		9									
病院(手術)			9	8			1					1
病院(高度)			1	16								
病院(出産)			10	3								八代1
病院(歯科)	10		8	1			1					1
買い物(肉・魚)	9		12			1						
買い物(野菜)	7		12									
買い物(高級)	3		6	3	1	3						1
買い物(衣料)	2		8	6		2	1					
買い物(高級衣料)				15	2	1						2
外食(1)	3		7	6	1							3
外食(2)	2		2	13								1
金融機関(1)	12		6									
金融機関(2)	3		7	1								
手配(飛行機)			14	3								
手配(電車)			7	3								
手配(外国)			8	6								
書店(1)			18			1						
書店(2)			1	12		3				1		2
学校(1)	1		18	3	1		5			4		2
学校(2)				16						1		1
自動車学校				4	1		1			5		2 大分2日向1
図書館(1)	8		1									
図書館(2)			1	2								
一般電化製品	4		3	12		1						3 大分1
コンピューター製品				10		1						

表5-15 産山村

	村内		村外						その他
	産山村	産本市	阿蘇町	一宮町	大津町	竹田市	菊陽町		
病院(かぜ)	13			2	2		1		
病院(手術)			12	4		1			
病院(高度)			12			1			
病院(出産)			4	2		6		防府1	
病院(歯科)	1		1	6	7		1		
買い物(肉・魚)	1		1	3	7	2	1		
買い物(野菜)			1	6	5	1	1	長陽1	
買い物(高級食材)			6		1	4	1	2	
買い物(衣料)			2	4	6	3	1	1	
買い物(高級衣料)			9			3		3北九州1	
外食(1)	1		2		9	1			
外食(2)	1		9			2		南小国1小国1波野1大分1	
金融機関(1)	14				4				
金融機関(2)	4		1		6				
手配(飛行機)			2		14				
手配(電車)			4		11				
手配(外国)			5	1	13				
書店(1)			2	8	6	1	1		
書店(2)	1		9			3	1	2北九州1	
学校(1)			2	4	18	3		小国1	
学校(2)			16		1	1			
自動車学校			5		6			1松橋2大分2三重町1	
図書館(1)	1		2	4	3				
図書館(2)			3						
一般電化製品			8	1	7	1			
コンピュータ製品			14		2				

表5-16 波野村

	村内			村外			県外			その他
	波野村	熊本市	一宮町	阿蘇町	大津町	菊陽町	竹田市			
病院(かぜ)	10			3	2					
病院(手術)	1	11		2	1					
病院(高度)		17								
病院(出産)		10				4	3		菊池1蘇陽1	
病院(歯科)	3	4		4	3					
買い物(肉・魚)	2			4	11				2	
買い物(野菜)	2			3	11	1			1	
買い物(高級食材)		5		4	5	1	2			
買い物(衣料)		8		2	4	2	3		1	
買い物(高級衣料)		15		1		2	2			
外食(1)		8		5	4					
外食(2)		13		4		1				
金融機関(1)	7			2	2					
金融機関(2)	1	4		6	1					
手配(飛行機)		6		11	2					
手配(電車)		6		11	2					
手配(外国)		5		11	2					
書店(1)		3		4	11				1	
書店(2)		12			3	2			1	
学校(1)		5		17	3	6			4三重町1	
学校(2)		16				5			大分2	
自動車学校		3		13					1松橋1	
図書館(1)	3			3	2					
図書館(2)		6		1	1					
一般電化製品		8		5	2				1	
コンピューター製品		13		3		1			1	

表5-17 一宮町

	町内		町外					八代市
	一宮町	熊本市	阿蘇町	大津町	菊陽町	益城町		
病院(かぜ)	18		1					
病院(手術)	1	16	1		2			
病院(高度)		17						
病院(出産)	3	4	2		4		2	
病院(歯科)	13	3	1					
買い物(肉・魚)	15			3	1			
買い物(野菜)	15		1		1			
買い物(高級)	5	5	3		4		1	
買い物(衣料)	4	5	3		3		5	
買い物(高級衣料)		16	1		2		1	
外食(1)	14	3			2			
外食(2)	6	12						
金融機関(1)	18							
金融機関(2)	13							
手配(飛行機)	9	2		6				
手配(電車)	10	2		2				
手配(外国)	8	5		3				
書店(1)	10			9				
書店(2)		11		6	2			
学校(1)	15	5			7			
学校(2)		16					1	
自動車学校	14	2					1	
図書館(1)	16							
図書館(2)		7		3				
一般電化製品								
コンピュータ製品								

表5-18 阿蘇町

	町内		町外		一宮町	菊陽町	大津町	松橋町	福岡市	大分市	乙姫
	阿蘇町	熊本市									
病院(かぜ)	19							1			
病院(手術)	2	12						3			
病院(高度)	1	17									
病院(出産)		8						1			
病院(歯科)	4				1						
買い物(肉・魚)	17					1					
買い物(野菜)	19				1						
買い物(高級)	8	5					3				
買い物(衣料)	5	12					4				
買い物(高級)	1	18					1				
外食(1)	5	12						2			
外食(2)	3	13						1			
金融機関(1)	20										
金融機関(2)	5					1					
手配(飛行機)	9	7				2					
手配(電車)	7	2									2
手配(外国)	7	6				2				1	
書店(1)	16	1					2				
書店(2)	1	14					2		1		
学校(1)	5	12				12		1			
学校(2)		13						1		1	
自動車学校		3				11		2		1	
図書館(1)	19										
図書館(2)		6									
一般電化製品	2	8				1					
コンピューター	3	7									

表5-19 高森町

	町内		町外					その他
	高森町	熊本市	大津町	菊陽町	阿蘇町	一の宮町	蘇陽町	
病院(かぜ)	14	1	3			1	1 白水1	
病院(手術)	1	17	1			1		
病院(高度)		19						
病院(出産)		12	3		1		1 福岡1	
病院(歯科)	11					1	1 白水2 長陽2	
買い物(肉・魚)	18		1			1		
買い物(野菜)	18							
買い物(高級)	8	5	2		2			
買い物(衣料)	7	7	1		5			
買い物(高級)	1	12	2		5			
外食(1)	9	7	2		1			
外食(2)	2	15	2				福岡1	
金融機関(1)	16					1		
金融機関(2)	6	4						
手配(飛行機)	5	10				1		
手配(電卓)	7	7				1		
手配(外国)	1	9				1		
書店(1)	13	5	3					
書店(2)		13	3		1			
学校(1)	15	3	9			2	1 高千穂1	
学校(2)	2	14	1					
自動車学校		4			5	2	3 宇土1 泗水1 神奈川1	
図書館(1)	1	1						
図書館(2)		4						
一般電化製品								
コンピュータ製品								

表5-20 蘇陽町

	町内		町外					その他
	蘇陽町	熊本市	大津町	高森町	菊陽町	矢部町		
病院(かぜ)	20							
病院(手術)	4	16						
病院(高度)		18						
病院(出産)	3	7		3			2 玉名2 横浜1	
病院(産科)	16	1			3			
買い物(肉・魚)	10	1	2	2	3	1	2	
買い物(野菜)	10	1	1	1	1	2	2	
買い物(高級)	10	8	2	2	2	2	1	
買い物(衣料)	1	11	2	2	2	2		
買い物(高級)	1	16	1	1			福岡1	
外食(1)	4	5	4			1		
外食(2)	1	16	1					
金融機関(1)	10	1			5			
金融機関(2)	1	1			6			
手配(飛行機)		19					2 西原1	
手配(電車)		18					1	
手配(外国)		19					2	
書店(1)	5	6	2	2	2	1		
書店(2)	1	13	2	2		2		
学校(1)	15	3	1	1	14		13	
学校(2)		18	2	2			宇土1 山梨県1	
自動車学校	4	6					松橋4 阿蘇3 一宮1 福岡1	
図書館(1)	2	4			2		1	
図書館(2)	2	6						
一般電化製品		11	3					
コンピューター製品		11	1					

表5-21 白水村

	村内		村外					その他
	熊本市	高森町	大津町	菊陽町	阿蘇町	長陽1		
病院(かぜ)	13		2				森陽1	
病院(手術)		13	1	2				
病院(高度)		15		1				
病院(出産)		6		1			大牟田1	
病院(産科)	10	1	5				長陽1	
買い物(肉・魚)	3		15		1			
買い物(野菜)	2		15		1			
買い物(高級食材)		10	5	2				
買い物(衣料)		10	4	3				
買い物(高級衣料)		14	1	1	2			
外食(1)		9	2	3	1			
外食(2)		14		2				
金融機関(1)	11		8					
金融機関(2)	3	2	7					
手配(飛行機)		6	1				9	
手配(電卓)		4	3	1			4 長陽1 福岡1	
手配(外国)		5					8	
書店(1)		2	4	2	7			
書店(2)		9		5	3			
学校(1)		10	9	10				
学校(2)		13						
自動車学校		3			9		2 一の宮1 土浦1	
図書館(1)	2	4	2	3				
図書館(2)		3						
一般電化製品		12						
コンピュータ製品		14						

表5-22 長陽村

	村内		村外						その他
	長陽村	熊本市	大津町	菊陽町	高森町	阿蘇町	一の宮町	白水村	
病院(かぜ)	18		1	3					
病院(手術)	2		15	3					
病院(高度)			15						
病院(出産)			7	8			1		益城1
病院(歯科)	13		3	1		2			1
買い物(肉・魚)	2		3	7	5	1			3
買い物(野菜)	3		3	6	4	1			3
買い物(高級)	1		9	5	3				
買い物(衣料)			8	6	6				
買い物(高級衣料)			16	2	3				
外食(1)	6		10	5					
外食(2)			16	5					
金融機関(1)	12		2	4		3	1		
金融機関(2)	2		4	2		4			
手配(飛行機)			14	1	1		1		
手配(電車)	8		7	2					
手配(外国)			11		1				
書店(1)	4		2	13	1				
書店(2)			14	6					
学校(1)			15	16		5	5	2	玉名1/八代1
学校(2)			14						
自動車学校	2		6		8		1	4	御船1
図書館(1)			4	1			6		西合志1
図書館(2)			9	1					
一般電化製品			12	4					
コンピューター製品			12	3					

表5-23 久木野村

	村外										その他
	村内	久木野村	熊本市	大津町	菊陽町	高森町	一の宮町	長陽村	白水村		
病院(かぜ)		16							1		3
病院(手術)			17	2							
病院(高度)			18								
病院(出産)			8	6		2			1		
病院(歯科)		14		1			2		2		
買い物(肉・魚)				7	1	3					7
買い物(野菜)		3		7	1	3					6
買い物(高級食材)			11	6	2						
買い物(衣料)			8	6	4	1					
買い物(高級衣料)			17	1	2						
外食(1)		1	10	4							2
外食(2)			17	2							
金融機関(1)		10				7				2	
金融機関(2)		1	3			11					
手配(飛行機)			11		3			1			福岡1ネット1
手配(電車)			9	1	3				2		福岡1
手配(外国)			13		1			1			福岡1ネット1
書店(1)		3	3	10	3	2		1			
書店(2)			15	3	2						
学校(1)			5	16		14		2			菊池1
学校(2)				1							
自動車学校			8								
			5		11	1		2			京都1
図書館(1)		2	6		3						西合志1
図書館(2)			15								
一般電化製品		1									
コンピューター		1			9						ネット1

表5-24 西原村

	村内		村外					その他
	西原村	熊本市	大津町	菊陽町	益城町			
病院(かせ)		8	3	3				
病院(手術)			13					
病院(高度)			14					
病院(出産)			10		1		3	
病院(歯科)		5	6	1			2	
買い物(肉・魚)		4	2	6	2		2	
買い物(野菜)		3	2	4	1		2	
買い物(高級食材)			9	3	1		1	
買い物(衣料)			8	2	4			
買い物(高級衣料)			13	1				
外食(1)		3	9				1	
外食(2)			11				1	
金融機関(1)		3	1	8			2	
金融機関(2)			6	4				
手配(飛行機)			10		1			
手配(電車)			8	2				
手配(外国)			9					
書店(1)		3	7	2				
書店(2)			10		2			
学校(1)			12	10				
学校(2)			10					
自動車学校			9		2		御船1戸島1岡山1	
図書館(1)			4					
図書館(2)			4					
一般電化製品								
コンピュータ製品								

第6章 まとめ

1. 対象地域の性格

今回の研究で対象とした4地域は、それぞれ性格が異なるが、大きく二つに分けて考えることができる。一つは、圏域内に中心となる小都市がある富良野地域と遠野地域であり、他は、圏域内にはっきりした中心地がない雲南地域と阿蘇地域である。

圏域内に小都市がある地域においては、まわりの農山村(町村)は、かつてはその都市に相当の機能を依存してきたはずである。しかし人々の活動の広域化と商品レベルの標準化によって、小都市の商業・サービス業活動は衰退してきたのが、全国的な傾向であった。このような地域においては、小都市がどのような役割を果たし得ているかが、地域生活の状況を考察するのに一つのポイントとなろう。その際、地方中核都市といわれるより上位の都市との間に、どのような役割分担が生まれているかが重要な点になってくる。

一方、中核都市から1時間ないしそれ以上離れた地域で、圏域内に確たる中心地がないばあいは、どの程度の機能が地元で充足されているのか、そしてそれ以上の機能がどこに求められるのかは、かなり複雑になることが予想される。このような地域で、現代的なレベルの高い生活サポート機能を充足することは基本的には困難であり、大きな移動を伴う必要がある。この実態がどうなっているかが注目点である。

2. 富良野地域と遠野地域

富良野地域の中心都市富良野市は、人口30万人以上を擁する地方中核都市旭川市から1時間30分程度のところにある。そしてその間に中富良野町・上富良野町があり、上富良野町になると、旭川市にかなり近くなる。また南富良野町は、富良野市から見て旭川市とは反対側の山間になる。

富良野市については、病院の利用、外食のレベルアップ程度の機能はほぼ充足している。しかしとなりの中富良野町になると、少し重い病気で旭川市を選ぶ人があられ、上富良野町になると、富良野市よりも旭川市を選ぶ人が増える。外食のレベルアップの際には、中富良野町・上富良野町ともにはっきりと旭川市を志向している。

南富良野町は旭川市から最も遠い位置にあるが、病院の利用で旭川市、さらには札幌もあらわれる。遠くに行かなければならないならさらに上位の都市を志向した結果かもしれない。南富良野町の外食のレベルアップは旭川市が富良野市に近い2位なのに対し、外出着ははっきりと旭川市である。外出着に関しては、富良野市をも含めて、この圏域全体がはっきりと旭川市を志向しており、これは、服装に関して人に遅れを取りたくないという姿勢のあらわれといってよいであろう。なお、この傾向は、今回の調査地域すべてに共通した重要な事実である。

遠野市の人口は富良野市のそれに極めて近い。県立病院もある。しかし病院の利用に関しては、入院を必要とする場合に、盛岡市の利用が多くなる点で、富良野市よりも中核都

市志向が強いことが窺われる。遠野市の西隣の宮守村や、さらに西の東和町では、花巻市の県立病院への志向が強まる。これらの地域すべてについて、外食のレベルアップと外出着の購入は、盛岡市が1位を占めた。これらの機能を充足するためには、1時間を超える距離の移動をいとわないという姿勢が、ここでも確認できた。

一般に、家電製品などは小都市で、パソコンレベルになると中核都市でという傾向がみられるが、小都市と中核都市の間にはさまれる地域は、多少距離が遠くても、さまざまな上位機能を中核都市で充足しようという傾向が、富良野・遠野地域に共通にみられる。また、遠野市に隣り合う宮守村で、遠野市と花巻市を比べた場合に花巻市が志向されることが多いのは、花巻市が新幹線・高速道路に直結しており、盛岡市、さらには東京へと続くルートにあることが影響しているかもしれない。

3. 雲南地域と阿蘇地域

この二つの圏域は、ともに確たる中心都市がない。このような圏域では、数箇所の中程度の病院があり、近年、幹線道路沿いにロードサイドショップが立地したりという状況がある一方で、あまり商業・サービス機能を持たない町村も混じっているのが普通であろう。

雲南地域では10町村の共同経営の雲南総合病院があるが、全域の人が利用しているわけではない。地元の大東町と近くの加茂町・木次町が中心であり、西部の多くの町村は出雲市に出る。最上流の県境の赤来町は、広島県三次市へ出る。また、東部山間の仁多町には独自の病院がある。

商業機能は、平野部に近い三刀屋町にロードサイドショップが並んで、圏域の半分程度の日常の消費は、ここで充足されている。一方、東南部の県境の横田町には、鳥取県方面の消費も視野に入れた大型店を始め、新しい機能が立地している。中国山地は細かく刻まれた地形の中に県境でも多くの集落があり、支持がある。仁多病院のある仁多町と共に、独自の商業・サービス業圏をつくっている。県境にある地域は、県境を越える商圏を作ることができれば、必ずしもさびれないことを示す。

そしてこれらの圏域の下流に出雲市があり、さらに少し遠くに松江市がある。多くの町村で、外食のレベルアップやパソコンの購入で出雲市と県都松江市が拮抗的であり、外出着の購入については、ほとんど松江市の支持が高くなる。松江市は県都としては人口が少ない都市であるが、やはり強い吸引力を持っていることがわかる。

阿蘇地域も、域内にいくつかの病院はあるが、県立病院クラスのものではなく、必ずしも支持されていない。重い場合には熊本市というのが一般的である。むしろ県境の小国町の公立病院が、地元では支持されている。小国町は、商業機能はそれほどでもないが、交流をベースにした地域づくりで有名であり、多くの人を訪れる。ここでも県境にあることが、かえって多方面から人を集めるために有利にはたらいており、前述の横田町の状況にも通じるものがある。

しかし阿蘇地域を通じて目につくのは、やはり熊本市の吸引力である。外食のレベルア

ップ、衣料品、書店、家電製品、パソコンなどで、かなり遠くても熊本市を利用しているケースが目立つ。特に高級な衣料品に関しては、2時間近くかかっても熊本市へ出かけている。

雲南・阿蘇両地域に共通することは、並の商業機能は、近年立地が著しいロードサイドの量販店で充足されていることと、すぐ近くに中程度の機能が立地していない場合は、遠くても中核都市まで出る傾向があること、また、圏域の中心よりも中核都市側の地域は、中核都市との関係が、通勤・通学を含めて急速に強くなるということである。逆に、中核都市から最も遠い県境が必ず衰退するわけではなく、その位置を活用するような施設の活用によって、活気をつくり出すこともあり得ることがわかった。雲南の赤来町の場合も、広島県三次市と、通勤やサポート機能の利用について、極めてすなおな関係にある。

4. 地方中核都市の吸引力の強さ

上に述べたそれぞれの地域に共通することは、県庁所在地もしくは人口30万以上の地方中核都市の吸引力の強さである。ここには道路整備の進捗が基盤として作用していると考えられるが、1時間以上、場合によっては2時間近くの時間をかけて、生活を充足するための行動が、相当の頻度で行われていることがわかった。

多くの小都市が衰退する中で、県庁所在都市は成長を続けてきた。そしてそこには全国チェーンの量販店が並び、個性ある個店を圧迫してきた。これはいわば都市の標準化の流れであった。いうなれば、この標準的な流れに乗るために、遠くの町村から頑張って中核都市へ出かけるような状況が生まれていると言えれば言い過ぎであろうか。そしてこのことは、生活の中の時間の余裕のなさをつくり出しているに違いない。

アンケートでは、中核都市どころか、札幌・広島・福岡という地方中枢都市の名前すら、散見された。

中核都市との関係で生活の価値が決まるのであれば、遠距離にあればあるほど、それは負担の大きい生活である。当初に述べた「多自然居住地域の創造」とは、身近にある資源を活かした持続的な産業の育成の上に、あくまで身近な都市の都市機能のレベルアップと地域連携によって、ゆとりある生活空間を育てようというものである。近年スローライフというキーワードがかなり定着してきた。そのためには、中心となる小都市の復権か、それがないところでは徹底した地域連携が必要になるだろう。

3. 小都市の復権と地域連携

人口が数万のかつての小都市は、コンパクトで密度の高い市街地を持ち、そこで営まれる商業機能のレベルは相当高いものであった。着物や道具など、売られている商品のレベルや、料理屋など、大げさに言えば県庁所在地とほとんど差がなかった。町によっては、近在の産品で、ほかではなかなか手にはいらないような物も売られていた。

しかし標準化された工業製品が商品の主流になり、人口の多い都市で品揃えのある大型

店が成り立つようになると、遠くの人までがそちらを支持するようになった。このことは、わが国の人々が余り個性や好みを大切にしない人々ではなく、まわりと同じになることを好む人々であったことがかかわっていると思う。フランスやスペインでは、小都市の個店に対する支持が根強いが、これは彼らが、個性や好みを何よりも大切にしているからである。

高度な医療サービスを供給する病院は、ある程度以上の都市でなければ成り立たないことは当然である。しかし、外食とくにいつもよりおいしいものをという場合には、それは大型店である必要はない。小さな町にレベルの高い店がいくらかでも成り立ち得るのである。しかし地元の人々がそれを評価できなければ、経営は成り立たない。

小さな町で、高度な商業・サービス業が成り立ち、まわりの住民が遠くに行かなくてもゆっくりとその機能を楽しむためには、住民自身が、その商品やサービスの価値を相対的に認識できるように、情報がいつも行き交っていなければならない。そしてその情報の価値を自分で判断し行動する習慣が育つような、地域社会としての働きかけが必要なのではないだろうか。

多自然居住地域は、人口が多い地域ではない。住民が大きな波と一緒に乗って行動することで成り立つ地域ではない。大げさに言えば、一人一人が違った役割を果たし、それが効果を発揮しあって成り立つような社会である。

小都市がなく、多くの中小町村が並んでいるような地域では、隣町にまずまずの機能があっても、中核都市のそれよりも高い機能を楽しむことで、隣町を無視するようなことがままある。それぞれの持つ機能を、お互いに利用し合うことで、機能のレベルアップが図れる。利用が少ないと機能のレベルアップどころか維持すらも困難になる。これは行政を超える問題でもあり、商工会等民間の機関が徹底的に話し合っただけで情報を行き渡らせることが大事である。

拡大成長型の発展に象徴された 20 世紀は、わが国において、画一化の徹底した進行の時代でもあった。画一化した地方中核都市の機能に、遠くの人までが無理に寄りかかることは、ある程度以上の都市以外の地域の衰退をますます推進することに繋がろう。中核都市から遠い地域でこそ、地域資源を活かした個性的な産業を育成し、人々の個性的判断によって、小さくてもレベルの高い商業・サービス業などの生活サポート機能が育つことに価値がある。結局は遠回りでも、数を頼みにするのではなく、個性に価値を見出すような人の育成が、根本的課題ということになる。

結論的に言えば、現代に生きるワザを持つ人とそれをすなおに評価する人が、身近な地域という場でいい形で関わりあうしくみの育成が、中核都市から遠い地域が輝くための必然的な方向だということである。